

現場で社会との関わり、働き方を考える。
立命館大学サービスラーニングセンター開講授業

2017 年度
「全学インターンシップ」
受講ガイド

立命館大学サービスラーニングセンター

衣笠：有心館 1 階

Tel: 075-465-1952 / Fax: 075-465-1982

BKC：アドセミナリオ 1 階

Tel: 077-561-5910 / Fax: 077-561-5912

OIC：A棟 1 階AN事務室

Tel: 072-665-2195 / Fax: 072-665-2059

（3 キャンパス共通）

窓口時間（開講期間中）：月曜日～金曜日/10:00～17:00

サービスラーニングセンターe-mail: ritsvc@st.ritsumei.ac.jp

サービスラーニングセンターHP: <http://www.ritsumei.ac.jp/slc>

目次

はじめに（重要なお知らせ）	3
1. サービスラーニングセンター開講科目「全学インターンシップ」とは	3
2. 「全学インターンシップ」の流れ	4
3. 立命館大学での受講ガイダンス・授業の日程・教室	6
4. 学部別単位授与について	6
5. 評価について	8
6. 受講の中止について	8
7. 教員による指導・アドバイス（コアタイム）、受講中の諸相談について	8
8. インターンシップ保険について	9
9. 「インターンシップのしおり」の配布について	9
10. FAQ	9
11. インターンシップ受入先一覧	10
12. インターンシップ受入先概要	11

はじめに（重要なお知らせ）

サービスラーニングセンターによる「全学インターンシップ」は、インターンシップ先での就業体験だけを目的としたものではありません。また、インターンシップ先は「全学インターンシップ」の受講が決定してから、「マッチング」によって決定します。

受講ガイダンス「イントロダクション・オリエンテーション」に参加し、この受講ガイドをよく読み、サービスラーニングセンター開講の「全学インターンシップ」の授業がどんなものかよく理解したうえでエントリーしてください。

また、受講許可後は、途中で投げ出さず、インターンシップ先で活動した学んでいることに留意し、常に立命館大学の学生として、またインターンシップ先の団体の一員として責任を持ち、自覚ある行動を心がけてください。

※受講ガイダンス（イントロダクション・オリエンテーション）に出席していない場合もエントリー可能です。

1. サービスラーニングセンター開講科目「全学インターンシップ」とは

① サービスラーニングセンターによる「全学インターンシップ」は、社会的な問題解決のための働き方を知るための、参加型学習による科目です。立命館大学では各学部のカリキュラムやキャリア教育センター等でもインターンシップを推進しています。しかし、この科目では、1999年度から2012年度まで展開してきた「ボランティアコーディネーター養成プログラム（VCTP）」の経験を踏まえ、NPO・行政機関等を中心に、受入先と受講生との協議のもと、活動計画を作成し、主体的な学びの機会を創出します。

② サービスラーニングセンターによるインターンシップでは、省察と互惠を鍵とするサービスラーニングの手法を重視します。事前学習（プレセミナー）と事後学習（アフターセミナー）は当然のこと、日常的に科目担当教員の指導を重ねることで、大学での学びと現場での学びを接続します。

③ インターンシップ先は「全学インターンシップ」の受講が決定した後、プレセミナーを経て「マッチング」により決定します。受講生と受入団体の対面によるマッチング相談の時間を設け、受入団体から提示されたインターンシップ計画と受け入れ学生の希望、および受講生の希望や学びの関心に基づいて、事務局にてマッチングを行います。（必ずしも第1希望の団体でインターンシップができるとは限りません）

2.「全学インターンシップ」の流れ

受講ガイダンス「イントロダクション・オリエンテーション」

地域に入る上での気づきの準備

エントリー

エントリー期間

4月13日(木)10:00～ 4月24日(月)11:00

エントリー方法

サービスラーニングセンターホームページ内教育カリキュラム「全学インターンシップ」のページより、Web 上にて必要事項を入力し、エントリーしてください。内容をもとに選考を行い、受講可否を決定します。

選考結果発表

発表日時 : 4月28日(金)13:00

発表方法 : サービスラーニングセンター窓口・HPにて掲示

※今後の手続きについても案内しますので、早めに確認してください

プレセミナー1・2(授業2回分)

① グローバル化で求められる社会の関わり

鳥の目(俯瞰)と虫の目(凝視)

② 社会とボランティア、NGO・NPO

セクター(領域)とパートナーシップ(関係構築)

日時: 5月21日(日)9:00～12:10

マッチング・インターンシップ先の決定

受講生と受入団体の対面によるマッチングによりインターンシップ先を決定する

日時: 6月10日(土)9:00～12:10

インターン先事前訪問

インターンシップ計画書の作成のために、事前にインターンシップ先の現場を訪問し、相談を行う

※日程は受け入れ先によって異なる

プレセミナー3・4(授業2回分)

① 社会と大学を結ぶプロセスデザインと活動のマッチング

目的(達成すべき学びの確認)と目標(果たすべき役割の確認)

② 地域に入る上での気づきの準備

問いと記録

日時: 7月1日(土)9:00～12:10



コアタイム(前期・後期開講中随時)

担当教員とインターンシップ計画書の作成、活動報告会の内容や修了レポートの作成の相談を行うのに加え、インターンシップを進めていく上で必要なアドバイスを受けます。

インターンシップ(最低 36 時間、標準 42 時間以上)

インターンシップ(前半)「知る・見る・わかる」

①社会問題の発見 ②自覚と責任 ③専門性の確立

インターンシップ(後半)「支える、企てる、担う」

①チームワーク ②意志と意味 ③ロールモデル

※インターンシップ(インターン先での活動)は最低 36 時間、標準 42 時間以上が必要です。なお、時間数は、インターンの期間や内容と共に、インターン先との合意の上で確認、決定されることとしています。

※インターンシップノートを作成し、受け入れ担当者にコメントと署名捺印をいただく。インターンシップ終了後は、受講生が担当教員に提出する。

中間ふりかえり(授業1回分)

立ち止まる・見つめ直す

①インターンシップを振り返り目標の再設定を行なう

②受講生がインターンシップ中に直面した問題や悩みや苦しみを共感する

日時:8月24日(木)9:00~10:30

アフターセミナー1・2(授業2回分)

グループワークを通じた共有体験からの共通言語化

①達成感と不全感 ②自己評価と相互評価 ③次の一手 ④プレゼントとしてのプレゼンテーション

日時:11月11日(土)13:00~16:10

活動報告会(授業2回分)

①インターン活動で誰と共に誰に対して何をどこまで取り組んだのか?

②インターンが現場に関わることで現場の何が変わったか?

③設定した目標はどれくらい達成できたか?

④全体で得た学びは個々の受講生がどのように活かせるか?

発表:ポスターセッション 30分×4セッション ※発表準備はグループ全員で行う。

日時:12月2日(土)13:00~16:10

評価対象物(レポート)提出

3.立命館大学での受講ガイダンス・授業の日程・教室

受講ガイダンス「イントロダクション・オリエンテーション」

※受講を考えている方はできるだけ出席してください。

衣笠キャンパス				
内容	月日	曜日	時限	教室
イントロダクション・オリエンテーション	4月10日	月	6	敬学館 235
	4月17日	月	6	敬学館 235
	4月19日	水	6	敬学館 259

B K C				
内容	月日	曜日	時限	教室
イントロダクション・オリエンテーション	4月11日	火	6	A309
	4月12日	水	6	A309
	4月19日	水	4	R402

O I C				
内容	月日	曜日	時限	教室
イントロダクション・オリエンテーション	4月10日	月	6	AN221
	4月13日	木	6	AN221
	4月18日	火	6	AN221

受講許可後

3 キャンパス共通				
内容	月日	曜日	時限	教室
プレセミナー1・2	5月21日	日	1・2	朱雀予定
マッチング	6月10日	土	1・2	朱雀予定
プレセミナー3・4	7月1日	土	1・2	朱雀予定
中間振り返り	8月24日	木	1	朱雀予定
アフターセミナー1・2	11月11日	土	3・4	朱雀予定
活動報告会	12月2日	土	3・4	OIC 予定

4. 学部別単位授与について

サービスラーニングセンター開講の「全学インターンシップ」は、単位数は2単位、受講登録制限外科目です。配当回生は2回生以上(2012年度以降入学生のみ)で、2017年度は2～6回生のみ受講できます。

サービスラーニングセンター開講の「全学インターンシップ」の単位授与分野、科目名は、所属学部によって異なります。また、学部独自に開講している「協定型インターンシップ A」やキャリア教育センター開講の「協定型インターンシップ B」の単位数をあわせて、要卒単位として認められる上限単位数が定められています。

必ず以下の一覧を確認してください。

(協定型 A は「協定型インターンシップ A」、協定型 B は「協定型インターンシップ B」の略です)

学部	類型	単位授与分野		科目名	要卒単位における上限	
法	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	2012～2015年度 入学生	専門（学際）	全学インターンシップ	全学インターンシップ`は、1科目2単位まで ※全学インターンシップ`、コーオプ教育概論、コーオプ演習をあ わせて 6単位まで（詳細は履修・登録の手引き参照）	
		2016年度以降入学生	教養科目C群			
経済	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	専門		全学インターンシップ	2科目以内かつ、4単位以内	
経営	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	2科目以内かつ、4単位以内	
産業社会	協定型A	自由選択		国内インターンシップ（専門） 海外インターンシップ（専門）	2科目以内かつ、4単位以内	
	協定型B	自由選択		国内インターンシップ（専門） 海外インターンシップ（専門）		
	サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ		
国際関係	協定型A	専門 固有専門関連		IR-EDR206インターンシップ （国際関係学専攻） IR-EDS202Internship （GS Major）	8単位以内	
	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	基礎		全学インターンシップ		
政策科学	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	2012・2013年度入学生	開講しない	全学インターンシップ	上限なし （＊要卒外認定とする。）	
		2014年度以降入学生	自由科目			
文	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	4年間で2科目以内かつ、4単位以内	
映像	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	2科目以内かつ、4単位以内	
理工	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	8単位以内 （これを超えた単位数は卒業に必要な単位数には含みませ ん。）	
情報理工	協定型A	共通専門		特殊講義（共通専門）	4単位以内	
	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	4単位以内	
生命	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	卒業に必要な単位として算入できるのは8単位が上限 （ただし単年度につき4単位以内。3単位もののインターン シップを履修した場合、2単位分を認定）	
薬	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	卒業に必要な単位として算入できるのは4単位が上限 （ただし3単位もののインターンシップを履修した場合、2 単位分を認定）	
スポーツ	協定型A	2012・2013年度入学生	専門・共通	インターンシップ`（国内）	「インターンシップ`（国内）」 「インターンシップ`（海外）」 「サービスラーニング`（専門）」 で3科目以内かつ、8単位以内	
				インターンシップ`（海外）		
	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ		専門・共通	インターンシップ`（国内）		
				インターンシップ`（海外）		
	協定型A	2014年度以降入学生	専門・共通	インターンシップ`（国内）	「インターンシップ`（国内）」 「インターンシップ`（海外）」 「サービスラーニング`（専門）」 で3科目以内かつ、8単位以内	
	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ			教養科目C群		全学インターンシップ
総合心理	協定型B サービ`スラーニング`センター提供 インターンシップ	教養科目C群		全学インターンシップ	全学インターンシップ`は、1科目2単位まで	

5. 評価について

「全学インターンシップ」は、通年科目で単位数は 2 単位、P/F(合格/不合格)評価です。評価は下記の要件とそれぞれの内容をもとに行います。

- ① 原則、プレセミナー、中間ふりかえり、アフターセミナー、活動報告会のすべてに出席していること
- ② インターンシップ(インターンシップ先での実習)を最低 36 時間以上行なっていること
- ③ 定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること

(諸注意)

- ・ 立命館大学の全学部 2 回生～6 回生がサービスラーニングセンター開講の「全学インターンシップ」を受講することができます。ただし、所属学部によって単位授与分野が異なります(一部、要卒単位としない学部もあります)。詳しくは、P6 を参照してください。
- ・ プレセミナー、中間ふりかえり、アフターセミナー、活動報告会の欠席は、原則認められません。ただし、やむを得ない理由でこれらを欠席した場合は、受講継続を認められることがあります。事前の届出を原則としますが、事後となった場合は、当該の授業日を含む 2 日以内とします。理由によっては、証明書の提出を求める場合があります。担当教員、もしくはサービスラーニングセンターで相談してください。
- ・ なお、インターンシップの時間数は、インターンの期間や内容と共に、インターン先との合意の上で確認、決定されることとしています。

6. 受講の中止について

受講生は受講開始後、以下の場合には、受講を中止することができます。

- ① 受講を継続することが困難になった場合
- ② 教育的配慮により、担当教員等が受講継続を困難と判断した場合

受講中止を希望する場合、担当教員に相談の上、「受講中止届」をサービスラーニングセンターに提出してください。なお、受講が許可された後に受講中止届を提出しても、受講登録の取り消し(受講辞退)にはならず、F 評価となります。

7. 教員による指導・アドバイス(コアタイム)、受講中の諸相談について

担当教員による指導・アドバイスをうけるため、また学びを深めるため積極的にコアタイムを活用してください。コアタイムは、教員からの指示、または教員と受講生が相談の上、日時、場所を決定します。

インターンシップを進めるにあたり、インターンシップ先との関係作りや、心構えなどの点でアドバイスが必要なときは、担当教員もしくはサービスラーニングセンター窓口まで相談してください。サービスラーニングセンターに併設されている学生ルームは、本授業の受講生も利用できます。

【サービスラーニングセンター】

衣笠 : 有心館 1 階

BKC : アドセミナリオ 1 階

OIC : A 棟 1 階 AN 事務室

8. インターンシップ保険について

「全学インターンシップ・プログラム」に参加する場合、研修が始まる前までに公益財団法人日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険（インターンシップ・教職資格活動など賠償責任保険）」に加入する必要があります。費用は大学が負担し、手続きは大学で行いますので、受講生が負担する費用や必要な手続きはありません。

「学研災付帯賠償責任保険」についての詳細は、下記 URL を参照してください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>（公益財団法人日本国際教育支援協会のページ）

9. 「インターンシップのしおり」の配布について

「全学インターンシップ」のプレセミナー開始後に、受講生みなさんに「インターンシップのしおり」を配布します。このしおりには、実際インターンシップを進める上での注意事項や、事前訪問の方法、緊急時の連絡先などを記載しています。必ずこのしおりに記載されている内容をよく読んでインターンシップを進めてください。

【参考：しおりの内容（抜粋）】

- ・ 事前学習方法（資料・文献の入手方法など）
- ・ インターンシップ計画書の作成方法
- ・ 事前訪問の際の注意点
- ・ 心得ておきたいマナー（メールの書き方、お礼状の書き方など）
- ・ 緊急連絡先

など

10. FAQ

Q1. サービスラーニングセンターが開講する2つのインターンシップに参加できますか？

A1. サービスラーニングセンターが開講する「全学インターンシップ」では、1年で1人の受講生が参加できるのは、1つのインターンシップのみです。年度が異なる場合の受講については、P6を確認してください。

Q2. プレセミナーやアフターセミナーを受けずに、インターンシップにだけ参加できますか？

A2. いいえ。「全学インターンシップ」は、インターンシップ先でのインターンシップと、プレセミナー、活動報告会までがひとつのセットになった授業なので、どこか一部分だけに参加することはできません。

※受講ガイダンス「イントロダクション・オリエンテーション」は参加していなくてもエントリーは可能です。

Q3. お金がかかりますか？

A3. インターンシップ先によって異なります。受講料などはありませんが、インターンシップ先へ向かうための交通費や終日インターンシップを行なう場合の昼食代など食費がかかる場合があります。

Q4. インターンシップの経験がなくても、受講できますか？

A4. はい。インターンシップの前後にプレセミナーやアフターセミナーがあるので、未経験の受講生も安心して受講できます。インターンシップ中に不安やトラブルが生じた場合は、いつでも担当教員またはサービスラーニングセンターへ相談してください。

Q5. 単位授与されますか？

A5. 必要な要件を満たすことで単位が授与されます。ただし、授与分野等は学部によって異なります。P6を確認してください。（一部、要卒単位としない学部もあります）

Q6. 他の授業と重なった場合、「授業配慮願い」や「公欠届」などは出ますか？

A6. いいえ。プレセミナーやアフターセミナーなどの講義・演習の実施日は、土日に設定していますので、基本的に大学の授業と重なることはありません。インターンシップの実習日と他の授業が重なった場合は、インターンシップ先と調整してください。万が一重なってしまった場合は、受講生各自の責任において対応してください。

Q7. インターンシップの日程、時間はどのように決まりますか？

A8. 既に日程が決定しているインターンシップ先もありますが、多くの場合、ある程度の時期が決まっている中でインターンシップ先と調整して日程を確定していきます。

11. インターンシップ受入先一覧

【全キャンパス所属学部対象】

団体名	キーワード	掲載ページ
特定非営利活動法人 碧いびわ湖	幼児教育・保育	P11
茨木市市民活動センター（特定非営利活動法人市民活動推進ネット）	中間支援	P13
特定非営利活動法人 HCC グループ	中間支援・交流イベント企画	P15
近江兄弟社高等学校	青少年・対人援助	P17
大阪府福祉部	地域福祉	P19
認定 NPO 法人 気候ネットワーク	環境・教育イベント	P22
特定非営利活動法人 きょうと NPO センター	中間支援・情報発信	P24
公益財団法人京都市ユースサービス協会	青少年・イベント企画	P27
公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター	居場所づくり・清掃・イベント企画	P30
公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市南青少年活動センター	中高生支援・居場所作り	P36
京都府地球温暖化防止活動推進センター	環境・イベント企画	P38
公益財団法人 京都YMCA	子ども・プログラム企画実施	P40
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団	コミュニティラジオ	P45
湖南省国際協会	多文化共生・学習支援	P47
特定非営利活動法人 D.Live	子ども・授業企画実施	P49
社会福祉法人 びわこ学園医療福祉センター野洲	障がい児・サマースクール	P52
特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば	子ども 生活・学習・余暇支援	P55
特定非営利活動法人 NPO ワイワイあぼしクラブ	子ども・障がい児	P57

12. インターンシップ受入先概要

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

私たちがのぞむ暮らしをつくるコミュニティ・オーガナイズ
～子育て中の母親たちによる多様な教育の場づくり～

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

多様な幼児教育／保育の場の魅力や必要性について理解し賛同する仲間を 100 人つくる
（立命館大学 BKC 周辺のローカルな地域社会をフィールドにした PR キャンペーン）

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

いま、地域には子育てに対するさまざまな価値観があり、多様な幼児教育や保育への注目が集まっています。しかし、公的な制度はどうしても待機児童数といった「数」への対応に追われ、子どもや社会が必要とする教育や保育の「質」を十分に提供できているのでしょうか？

人口減少や地球環境危機といった言葉で危惧されることの多いこれから先の社会にむけて、「子どもたちが困難な状況にもしなやかに対応し、自分らしく、創造的に生きていける力」を身につけ、持続可能な社会へシフトしていくことができるかどうか、とっても気になる問題です。

プロジェクトの活動概要

あなたなら「自分の子どもにどんな風に育ってほしい」って思いますか？

このプロジェクトでは、「自分の子どもたちに、自分らしく、自ら感じて、考えて、行動できる人になってほしい」と心から願っている母親たちとともに行動します。

具体的には立命館大学 BKC 周辺地域で「シュタイナー教育」や、「森のようちえん」といった自由で個性的なスタイルの幼児教育／保育に取り組む実践者や、こどもたち、そして、なにより、その親たちが当事者として、自分たちが望む教育／保育の場の魅力や必要性を、ローカルな地域社会にアピールする活動を行います。特に、「コミュニティ・オーガナイズ」という 1930 年代のアメリカで生まれ、民衆運動の中で培われたノウハウをもとに学びながら実践します。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017 年 8 月 1 日 ～ 2017 年 9 月 30 日 日数：10 日程度※応相談（36～42 時間）

日	テーマ	研修内容
8 月	オリエンテーション	「コミュニティ・オーガナイズ」 & 「多様な幼児教育／保育」について知る
	インタビュー＆レポート	プロジェクトメンバーの子育て中の母親たちにインタビューし、彼女たちが大切にしていることを聴き取り、他者に伝えられるようレポートする（ウェブ）。
8～ 9 月	ミニ・ハウスミーティング	母親たちがキャンペーンの一環として行うハウスミーティングの運営をサポートする。
	キャンペーン・プロモーション	キャンペーンのプロモーションについて、母親たちと一緒に相談し、プランして、実践する。

9 月	お祝い会（企画・運営）	キャンペーンの終了をみんなで祝おう
-----	-------------	-------------------

受け入れにあたって
募集人数：4 名
活動場所・アクセス 立命館大学 BKC 周辺地域（草津市、栗東市、守山市、野洲市） ※コ・ワーキング拠点として、プロジェクトリーダー自宅（草津市桜ヶ丘／BKC から 1.5km 程）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 事前に知識やスキルを習得している必要はありません。が学ぶ意欲がある人を希望します！ ⇒「シュタイナー教育」や「森のようちえん」といった幼児教育／保育についての考え方や、「コミュニティ・オーガナイズング」というノウハウを学びながらインターン活動をしてもらいます
読んでおくべき事前資料および参考文献 （参考）こんなローカルメディアが増えれば、市民主導の強い社会が育まれていく。横浜・青葉区の“お母さん” 発「森ノオト」 http://greenz.jp/2017/03/07/morinooto/
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 子育て中の母親たちとともに活動します。周りに子どももたくさんいます。子連れだと、いろんなことが、子連れらしいペースや、スタイルになります。また、既成の固定観念を押し付けるような考え方は、どちらかという敬遠されますので、そうした場になじんでくださいね。

受け入れ団体について	
団体名：特定非営利活動法人碧いびわ湖 団体のミッション（活動目的）： 子どもと湖が笑ってる未来へ——大切なことを他人任せにしない、自分たちで力をあわせつくる。 事業概要： 住まいづくり／共同購入／リサイクル／地域づくりと事業は多岐にわたるが、今年から「市民が市民の力を組織するプロジェクト」という新たな試みを開始。 研修先所在地： 〒521-1311 近江八幡市安土町下豊浦 3 番地（JR 安土駅から徒歩 10 分） 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone:0748-46-4551 / fax:0748-46-4550 / e-mail: info@aoibiwako.org 研修責任者（スーパーバイザー）：根木山恒平・綾牧生	

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
自分たちが望むくらしや社会を、ワクワクしながら、みんなで力をあわせて、つくっていきたくて願っています。ともに行動して下さる仲間の参加を心からお待ちしています。

茨木市市民活動センター（特定非営利活動法人市民活動推進ネット）

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

茨木市市民活動センターの役割を知る。またセンターの運営と様々な事業を通して、市民公益活動の実際を知り、多様な支援の在り方を学ぶ。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

茨木市内市民公益活動の拠点としてのセンターの充実。市民活動の支援、活動団体の育成、各機関（各団体）との連携を図る中で、新たな活動の展開を図る。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

市（社会）の様々な課題や問題の解決に、市民の力が大きく期待されている。その拠点としてのセンターの役割は大きい。多くの市民活動団体が連携し、互いの活動を理解し協働することの要としてセンター機能の充実を図ることが重要と考えている。

【センターの役割】

- ① 市民活動団体を支援する。 ② 団体間、および団体と様々な機関を繋げる。
- ③ 社会の課題、市民に関心のある事象についての講演会、講習会の開催。
- ④ 活動に必要な情報の発信 ⑤ 活動における諸問題への相談事業。

これらの役割を果たすために、センター機能の充実を図り、様々な事業を展開していることをインターン諸氏に理解していただき、若い感性と行動力で、センターに新しい風を吹き込んでいただくことを期待している。

プロジェクトの活動概要

市民活動センターの通常業務を理解する。センター登録団体の活動内容を知る（180団体）

今年度のセンター事業予定と内容の概容を説明するので、気づきや新しい提案を期待しているし、事業実施にも関わってください。またインターン生自身の積極的な事業提案を望んでいる。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年7月10日 ～ 2017年9月			日数：7～10日
日	テーマ	研修内容	
第1日	オリエンテーション	施設案内、スタッフ紹介、事業説明、目標の設定	
第2日	センター事業への参加	市民活動応援フェスタ開催に参加	
第3日	センター関連施設見学	茨木市役所各課、茨木市社協、各施設	
第4日	実習	センター資料閲覧、来所者対応	
第5日	実習	センター事業への参加	
第6日	実習	センター事業への参加	
第7日	活動のまとめ レポート作成	ミーティング	

受け入れにあたって
募集人数：2名
活動場所・アクセス 茨木市駅前4丁目6-16 クリエイトセンター内 JR 茨木駅、阪急茨木市駅から徒歩8分 TEL: 072-623-8820 E-mail: ibaraki-npo@cyber.ocn.ne.jp
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 市民活動に関する基本的な知識 PC 操作（ワード、エクセル、メール）
読んでおくべき事前資料および参考文献 茨木市市民活動センターのホームページ（茨木市 HP または茨木市市民活動センターで検索） 掲載の登録団体の概要に目を通しておいください。
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 来所者への対応に注意 わからない事は必ず担当者、職員に相談する。必ず報告。 市民活動支援のためのセンター事業の企画と実践に関わってください。

受け入れ団体について
団体名：茨木市市民活動センター（NPO 法人いばらき市民活動推進ネット） 研修先部署名：茨木市市民活動センター 団体のミッション（活動目的）： 市民公益活動の拠点としての施設（活動センター）の運営 一般市民や団体支援のために、設備の充実、事業の開催、相談業務棟を実施する。 事業概要： ①センターの運営 ・会議室、ブース、ロッカー、メールボックスの貸し出し ・各種展示物、案内、書籍、団体資料の等の常備 ・印刷機、コピー機、丁合機、裁断機、紙折り機等機材の貸し出しと管理 ②センター事業の実施 ・各種講座、講習会の開催 ・ボランティア養成講座・活動相談 ・市民活動応援フェスタ開催 ・ギャラリー事業 ・茨木市防災会議、災害時ボランティア活動の推進 研修先所在地： 茨木市駅前4丁目6-16 クリエイトセンター内 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone: 072-623-8820 / fax: 072-623-8820 e-mail: ibaraki-npo@cyber.ocn.ne.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：奈良平典子（センター長）

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
市民の多様な活動と生き方に触れ、また様々な機関との接点は、人としての視野を広げ、今後の社会人としての生き方に必ずや役に立つと信じています。 利益を追求する機関ではありませんが、ボランティア活動、市民活動は、その人の人生観が基盤となつての活動です。ぜひ学んでほしいと思います。 インターン中に企業との接点があれば、今後の社会人として何らかの役に立つかと思っています。

特定非営利活動法人 HCC グループ

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

学生と市民活動団体のテーマ型交流事業の企画運営

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

当法人は市民公益活動の中間支援施設である大津市市民活動センターの指定管理業務を担っている。本インターンシップでは、学生が市民活動団体と連携しながら、相互に交流する事業の企画運営を通じて、市民活動団体の運営に対する理解を深め、企画運営能力の獲得を目指す

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

大津市市民活動センターは大津市内の市民公益活動団体の活動を支援する公共施設である。市内には福祉や教育、環境などさまざまなテーマを持つ団体があるが、学生が主体となって企画運営する交流事業は行われていない。学生の視点から同分野、または横断的なテーマを設定した交流の機会を提供することにより今後のよりよい連携に向けた機運が醸成されることが期待できる。

プロジェクトの活動概要

- 1) インターンの学生は大津市内（ケースによっては市外を含む）の市民活動団体の実態を調査し、市民活動団体が交流することで相互に啓発、連携の可能性があるテーマを設定する。
- 2) テーマに基づき、市民活動団体への交流事業への参加を呼びかけ、交渉し、企画を詰める。
- 3) 交流事業の運営と事後評価

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年7月～2017年10月	日数：20日程度（学生の企画内容による）
------------------------	----------------------

日	テーマ	研修内容
7月	市民活動団体の実態調査、テーマ設定	大津市の統計、市民活動団体のデータなどの基礎調査を行い、テーマを設定
7月後半	交流事業の企画、交渉	交流事業の企画、市民活動団体との連絡、交渉
9～10月	交流事業の運営、事後評価	交流事業を学生主体で運営、啓発や連携の面から事後評価

受け入れにあたって
募集人数：5名
活動場所・アクセス 大津市浜大津4-1-1 浜大津明日都1階（京阪浜大津駅すぐ）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 悩むことを楽しむ力
読んでおくべき事前資料および参考文献 適宜指示
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・ 主体的に企画してください(手足は要りません) ・ つまらない言い訳は要りません(USB が壊れた等等) ・ 自分で勉強してください(自分でどこまでどのように調べたがわからない、という質問のみを受け付けます) ・ 夏休みなどにフレキシブルに動ける状況を作ってください。 ・ PC は持参してください

受け入れ団体について
団体名：NPO 法人 HCC グループ 団体のミッション（活動目的）：まちづくり 事業概要：中心市街地活性化、グリーンツーリズム、フェトレード事業等 連絡先：phone/fax: 077-527-8661 / e-mail: asano.s@movementotsu.com 研修先所在地：活動場所に同じ 報酬、交通費の支給：なし 研修責任者（スーパーバイザー）：浅野智子

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
1つの事業をはじめから企画をするのはしんどい作業ですが、楽しく創造的な作業ですので好奇心でチャレンジしてみてください。社会に出たときに役に立つと思います。若いスタッフや学生が多い NPO です、楽しむ場所にもしてください。

近江兄弟社高等学校

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

学校内でのボランティア（対人援助活動）の体験、およびコーディネート業務の理解

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

ボランティア体験を通じて、自分自身の対人コミュニケーションをふりかえる。
学校現場における大学生ボランティアの活動の意義と可能性について考える。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

近江兄弟社高校単位制課程（在籍生約 240 名）では、「ラーニングアシスタント（略称：LA）」という大学生のボランティアスタッフによる、高校生への学校生活支援の活動を行っています。約 10 名の LA が、生徒の話を聞いたり、教科の勉強を手助けしたり、学校行事へ一緒に参加したりと様々な領域で活動しています。「先生」でも「生徒」でもない若者たちが学校の中に入り、生徒たちが学校生活を快適に送れるようサポートする、こうした取り組みの意義は大きいといえます。

LA は対人援助に携わるボランティア活動であり、コミュニケーションスキルの向上は大変有意義です。毎月のミーティングや日常的な関わりの中でコーディネーターは、ボランティアのスキル向上に努めています。また、ボランティアメンバー同士の関係作りも大切な要素です。学校現場に大学生のボランティアスタッフが存在することの意義と、そのコーディネートの視点について考えるインターンシップにしてください。

プロジェクトの活動概要

- ①LA 活動への参加（高校生と関わるボランティア活動の体験）
 - ②LA ミーティングの企画・運営（ボランティアスタッフのコーディネート）
 - ③LA 研修会の企画・運営（ボランティア育成の研修プログラムを考え、実施する）
- ※上記の中から、各人の関心に合わせてプログラムを選択し、計画を立ててもらいます。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2017 年 9 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日 日数： 7 日

日	テーマ	研修内容
1 日目	オリエンテーション	インターン実習内容の計画作成
2～4 日目	ボランティア体験 (LA 活動・LA ミーティング への参加)	ボランティア活動の体験および毎日のふりかえり ボランティアスタッフとの顔合わせ
5～7 日目	コーディネーター業務の補助・研修の企画	コーディネーター業務(活動内容の発信・ミーティングの準備等)の補助、研修会の企画・準備
7 日目	ふりかえり	インターンシップ活動全体のふりかえり
※全日程	ボランティア活動参加	LA 活動の体験（高校生との関わり・学校行事への参加）

受け入れにあたって
募集人数：3名（18～30歳くらいまでの方で、日程条件をクリアできる方）
活動場所・アクセス 近江兄弟社高校単位制課程（滋賀県近江八幡市）の校舎内および、学校行事の会場 アクセス：JR(琵琶湖線)近江八幡駅から 近江鉄道バス「長命寺行」約10分「学園前」下車すぐ
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 対人援助に関心のある方（経験は問いません）、パソコンで文書作成やメール操作ができる方
読んでおくべき事前資料および参考文献 近江兄弟社高校・単位制課程についての資料 「出会いなおしの教育－不登校をとともにいきる－」春日井敏之・近江兄弟社高校単位制課程編著 ミネルヴァ書房 2013年
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・ 遅刻や欠席については、必ず担当者に連絡を入れてください。 ・ 服装・髪型は普段通りでかまいません。ただし、高校生と接することを考えた節度あるものにしていただくようお願いします。 ・ 担当者には、活動に関する報告・連絡・相談をしっかりと行うようにしてください。 ・ オリエンテーションで説明する、個人情報の取り扱い等についての事項を守ってください。 ・ 8月は本校が夏季休暇期間のため、インターンシップ期間は9月～11月の約3ヵ月間に渡る予定です。この期間に柔軟なスケジュール調整が可能な方を優先します。

受け入れ団体について
団体名：近江兄弟社高等学校 研修先部署名：単位制課程 団体のミッション（建学の精神）：イエス・キリストを模範とする人間教育 事業概要：近江兄弟社学園には、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校があり、それぞれの教育目標を掲げて教育活動を行っています。 研修先所在地：〒523-0851 滋賀県近江八幡市市井町 177 報酬、交通費の支給：交通費実費支給 連絡先 phone: 0748-32-3444（代表） / fax: 0748-32-3994 / e-mail: nomoto_m@yahoo.co.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：野本実希

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
「対人援助活動」や、「学校現場でのボランティア活動」に関心のある方にとっては、得るものの多い活動だと思います。プログラムには柔軟性をもたせていますので、自分がインターンシップの活動を通して得たいものを明確に持ち、それにもとづいた計画を立ててください。

大阪府福祉部

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

「民生委員・児童委員活動の見える化」プロジェクトの実践

*** 未来の地域社会を支える若者（大学生）が民生委員・児童委員活動を知り、魅力を PR ***

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

◇本事業への参画を通じて、参加者が民生委員・児童委員（以下「民生委員」という。）の役割・活動内容等の理解を深めるとともに、自ら習得した知識を基に、民生委員活動を広く PR し、認知度向上を図るとともに、新たな担い手確保を促進します。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

◇現在、府域では、およそ 13,000 人の民生委員が厚生労働大臣の委嘱を受け、無報酬の特別職の地方公務員としての位置づけのもと、地域の見守りや相談・支援、地域福祉活動等に取り組んでいます。

◇しかしながら、急速に進む少子高齢化をはじめ、社会・経済環境の構造的変化を背景に、地域福祉を取り巻く環境が著しく変化している中、生活困窮者の自立支援など、「新たな福祉・生活課題」への対応等に加えて、住民に身近な「民生委員」の職務内容の重要性、多様・複雑化、専門化に伴い、民生委員の負担感や高齢化も相まって、不足する傾向にあり、新たな担い手を確保することは、府の喫緊の課題です。

◇こうした状況の下、民生委員の新たな担い手確保に向け、ターゲットの裾野を拡げるため、大学生を対象に、民生委員活動に触れる機会を提供し、自身が暮らす「コミュニティのあり方」や「ボランティア活動等の社会貢献」など、地域社会への関心の高まりと豊かな人間力の醸成等を通じて、地域を担う人材発掘・確保をめざします。さらに、プログラム参加者は、民生委員活動の宣伝 PR 部隊として、広く情報発信を行い、民生委員のイメージアップを図ります。

プロジェクトの活動概要

- ①『事前研修（講義&グループワーク）』
 - ・ 民生委員活動に求められるスキル・ノウハウや活動の PR 内容の作成手法を習得
- ②『インターンシップ』
 - ・ 民生委員に随行し、地域福祉の実態を把握
（高齢者の安否確認への同行、地域福祉活動への協力等）
- ③『事後研修（グループワーク）』
 - ・ ②のふりかえり
 - ・ 活動報告会の発表資料や活動 PR 内容（動画・フリーペーパー等）作成、情報発信等を実施
- ④『活動報告会』
 - ・ ②の報告及び活動 PR 内容の発表（ポスターセッション）
 - ・ 研修プログラム修了者に対し「民生委員・児童委員サポーター認定証」の交付

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）		
研修の期間：2017年8月中旬～2017年11月下旬（予定）		日数：概ね5日程度
日	テーマ	研修内容
8月中旬 [大阪府庁]	①事前研修	
	民生委員・児童委員制度を知る[講義]	◇プロジェクトの趣旨・目的、研修プログラムの説明 ◇制度の基礎知識（役割・活動内容等）や課題等を理解
	基礎知識を習得する[講義&グループワーク]	◇大阪の地域福祉を取り巻く課題等を通じて、「地域福祉に関する基礎知識」を習得 ◇「活動に求められるスキル・ノウハウ」や「魅力発信手法」を理解・習得
8月中旬～9月中旬 [大阪府内]	②インターンシップ	
	民生委員の実体験を聴取する	◇民生委員から活動内容や困難事例等の実体験をヒアリングし、意見交換を実施
	民生委員活動内容を実践する	◇民生委員活動に密着し、多様な世代が暮らす地域福祉の実態・課題等を習得 [活動内容(例)] 地域住民の見守り支援、地域福祉活動への協力、行事・事業・会議への参加・協力、行政への協力
9月中旬 [大阪府庁]	③事後研修	
	民生委員活動をふりかえる[グループワーク]	◇民生委員活動の『現状把握と課題整理』を実施 ◇地域福祉の充実を図る新たな施策を検討
	活動報告会の発表資料を作成する[グループワーク]	◇ふりかえり内容をとりまとめ、『活動体験と新たな施策提案』を盛り込んだ発表資料を作成するとともに、民生委員・児童委員活動の『PR内容』を作成
11月下旬 [大阪市内]	④活動報告会	
	民生委員活動の課題解決を図る新たな施策を提案する	◇活動内容やPR内容を発表し、認知度アップを図る（ポスターセッション） ◇プログラム参加者にサポーター認定証を交付

受け入れにあたって
募集人数：5名
活動場所・アクセス
◇①③：大阪府庁（大阪市営地下鉄・京阪電車「天満橋」駅、大阪市営地下鉄「谷町四丁目」駅）
◇②：大阪府内（研修先は参加者と調整して決定します）
◇④：大阪市内（予定）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など
◇パソコン操作（メール・ワード・パワーポイント）が可能な方

読んでおくべき事前資料および参考文献

◇「民生委員・児童委員制度のあり方検討部会」報告書

<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/18550/00202430/houkokusyo.pdf>

◇「民生委員・児童委員活動の見える化プロジェクト」ホームページ

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chiikifukushi/mieruka/>**インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど）**

◇民生委員は個人情報に基に日々活動等を行っているため、随行や情報発信等の活動を行うにあたり、その取扱いに十分な留意が必要です（*事前研修の中で、個人情報の保護や要援護者とのコミュニケーションなど、委員活動に求められる知識やスキルを学んでいただく予定です）。

受け入れ団体について

団体名：大阪府福祉部

研修先部署名：地域福祉推進室地域福祉課

団体のミッション（活動目的）：

- ・住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担う（地方自治法第1条の2第1項）

事業概要：地域福祉の推進に関すること、民生委員法の施行に関すること

研修先所在地：大阪府中央区大手前2丁目／大阪市住之江区南港北1-14-16

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：phone:06-6944-6657 / fax:06-6944-6681 / e-mail:chiikifukushi-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp

研修責任者（スーパーバイザー）：大久保信一

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

今からおよそ100年前、民生委員の前身である「方面委員制度」が、大阪にて創設されました。

その後、全国的制度へと普及し、脈々と受け継がれた今、民生委員は「地域」という現場の最前線で、高齢者や子育て世帯等の見守り活動等を通じて、日々、住民の暮らしに向き合い、課題発見・解決へつなげる取り組みを行っています。

本プログラムへの参加を契機として、未来の地域社会を支える皆さんに、地域活動に関心を持ち、地域課題を知っていただきたいと思います。皆さんの活力は地域にとってかけがえのない財産です。

ぜひ、地域福祉に関心のある方、行政による福祉への関わり方に興味のある方、私たちと一緒に皆さんのパワーを結集し、地域を支える民生委員の認知度アップ活動等を通じて、地域福祉の向上に取り組んでみませんか。

認定 NPO 法人 気候ネットワーク

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

自然エネルギー普及の担い手育成、環境教育プログラムへの参加・実施

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

気候変動・エネルギーについての問題意識をもち、持続可能で公平な地球社会の実現と、日本における持続可能な地域づくりに貢献することを目指します。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

気候ネットワークは、地球温暖化防止のために市民の立場から「提案×発信×行動」する NGO/NPO です。2015 年には新しい国際ルール「パリ協定」が誕生しました。世界全体の気温上昇を 2℃あるいは 1.5℃未満に抑えることを目標としています。そのためには、炭素を排出しない「脱炭素社会」への移行が必要です。本プロジェクトを通じて、地球温暖化問題を学び、対策を進めるための活動に参加していただきます。

プロジェクトの活動概要

自然エネルギー学校・京都…気候ネットワークは他の団体と協働で、自然エネルギーの普及のための担い手育成を 1999 年から開催しています。エネルギーシフトを実現するために市民・地域からの取り組みをサポートする講座です。座学だけでなく、ワークショップなどを行い、知識を深めていきます。

環境教育プログラム…持続可能な社会の実現のためには、次世代へ環境問題を伝えることも重要な活動です。気候ネットワークでは、京都市内の公立小学校の全校で温暖化防止プログラムの実施を担っています。学習会の準備や授業へ参加し、子ども向け環境教育について学びます。

再エネ 100%ビジョンに向けた調査…再生可能エネルギー普及に関する国内外の最新動向調査・発信、イベントの企画・運営など、インターン生の希望に沿って業務内容を決定します（過去には、気候ネットワークを通じて国連気候変動交渉会議（COP）に参加したインターン生もいます）。

受け入れにあたって

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2017 年 7 月上旬 ～ 2017 年 10 月末 日数：10 日間程度

日	テーマ	研修内容
第 1 日	オリエンテーション	組織・メンバー紹介 目標/計画設定
第 2 日	プロジェクト毎の活動	
-	↓	各プログラムの取り組み
最終日	活動まとめ	活動レポート（ブログ等の執筆）
		※活動時期に合わせて調整可能です。

受け入れにあたって
募集人数：3名
活動場所・アクセス 気候ネットワーク・京都事務所 市バス「四条高倉」/地下鉄烏丸線「四条駅」/阪急「烏丸駅」16番出口を出て北へ徒歩2分
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・基本的なPCスキル(Word・Excel・PowerPoint など)、環境問題への関心(特に気候変動問題)やNPOやボランティア活動について興味を持っていること。
読んでおくべき事前資料および参考文献 よくわかる地球温暖化問題(中央法規出版・2009年)、地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ！-(小西雅子 岩波ジュニア新書)、気候ネットワークホームページなど。
インターンシップ参加の注意点(持ち物・心構えなど) 事務所内作業でPCを使用します。個人でお持ちいただくのも可能です。ご相談下さい。

受け入れ団体について
団体名：認定NPO法人気候ネットワーク 団体のミッション(活動目的)： 気候ネットワークは、地球温暖化防止のために活動するNGO/NPOです。地球温暖化防止のために「市民のチカラで気候変動を止める。」を合言葉に、国際・国・地域において重層的な活動を行っています。ひとりひとりの行動だけでなく、産業・経済、エネルギー、暮らし、地域等をふくめて社会全体を大きく「変える」ために、地球温暖化防止に関わる専門的な政策提言、情報発信とあわせて地域単位での地球温暖化対策モデルづくり、人材の養成・教育等に取り組んでいます 事業概要：国際交渉への参加／政策提言・調査研究／地域の温暖化防止活動の支援、温暖化防止教育 研修先所在地：京都市中京区帯屋町574番地 高倉ビル305号 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone:075-254-1011 / fax:075-254-1012 / e-mail:yamamoto@kikonet.org 研修責任者(スーパーバイザー)：山本 元(やまもと はじめ)

研修責任者(スーパーバイザー)からのメッセージ
インターンのプログラム以外にも、学生ボランティアが中心となって進めているプロジェクトもあります。ぜひ、積極的に参加してみてください。

特定非営利活動法人 きょうと NPO センター

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

学生・若者と NPO とをつなぐ NPO のための PR プロジェクト

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

■ 京都の NPO やボランティア活動について知る、理解を深める

・きょうと NPO センターが指定管理者として運営をする京都市市民活動総合センターにおいて、センターの運営スタッフと一緒に働くことを通じて、京都の NPO やボランティア活動の現状と、支援活動の現状について知り、まずは皆さんに理解を深めていただきます。

■ 学生の視点で、京都の NPO 等や支援活動の現状について発信するー

*インターンシップ生の興味関心分野や、得意な技術などを総合的に加味し、ゴール設定を行います。

A(選択): イベント企画の実施

主に学生・若者を対象に NPO や市民活動の意義や役割をどのように伝えたら良いのか、独自企画を検討(例:「マンガでみる社会の課題と市民の公益活動」など)し、実施する。
もしくは SNS 等で発信する。

B(選択): 情報発信サポート

NPO のイベント情報やボランティア募集情報などの情報を収集し、魅力的な情報発信のために情報の見せ方や伝え方のアドバイスを NPO 団体に行う。(キャッチコピーやリード文の提案)
写真やイラストが得意な学生においては、情報発信時に効果的な素材の作成もサポートする。

C(必須): ラジオでの取り組み紹介

きょうと NPO センターがコミュニティ放送局において企画・制作をしているラジオ番組「KYOTO HAPPY NPO !」にて上記取組みの様子もしくは NPO 団体を紹介する。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

2011 年東日本大震災以降、NPO 等やボランティアへの活動が改めて注目され、今や NPO 法人の数は全国で 5 万を超えるほどまでになりました。NPO 等への期待が高まり、活動が広がる一方で、2013 年に内閣府が行った NPO に関する世論調査において、「NPO の活動に参加してみたいと思うかどうか」という問いに対して、20 歳～29 歳の年代の 62%が「参加したいと思わない」と回答。思うと答えた 24.7%（わからないは 13.3%）を大きく上回る結果が出ています。そして、参加したいと思わない理由の約 50%が「参加する機会がない」「関心がない」という回答でした。

上記のアンケート結果をふまえ、私たちは 2 つの問題意識をもっています。一つは、NPO 側が積極的に市民や社会にきちんと情報を開示・発信出来ていないこと、また二つ目に、学生を含めた 20 代の若い方達に関心を持つような伝え方ができていないのではないかとことです。

本プロジェクトでは、上記の問題意識をもとに、大学生である皆さんに京都の市民活動や NPO の現状について仕事を通じて理解を深めていただき、当センターのスタッフとともに、皆さんの視点や言葉で学生を含めた若い層に対して、NPO の現状や必要性について、どのように伝えることが有効か、一緒に検討したいと考えています。

プロジェクトの活動概要

インターンシップ生は、当センターの事業担当者とともに下記の事業に関わっていただきながら、一担当者としてプロジェクトに携わっていただきます。

必須（基礎）活動：

- ・京都市市民活動総合センターの運営サポート（情報収集・発信事業のサポート）
- ・ラジオ番組企画案の作成、ゲストコーディネート・ゲストとの打合せ、収録
- ・センターが運営しているブログ、SNS 等での発信

A（選択）：イベント企画の実施を希望する学生

- ・市民活動を身近な題材から考える企画の立案、イベント広報、イベント運営、結果の分析

B（選択）：情報発信サポートを希望する学生

- ・情報発信を希望する団体スタッフへのインタビュー形式でのヒアリング、
広報文の作成・提案

※上記事業以外にも、きょうとNPOセンターの持つ幅広いネットワークを活用しながら、インターン生の状況や希望に応じて、内容については対応していく予定です。上記枠組みの中で、「こういうことをしたい！」という意欲ある学生を歓迎します。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017 年 8 月上旬～2017 年 10 月上旬 日数：15 日～20 日程度

日	テーマ	研修内容
8 月上旬	オリエンテーション	NPO の基礎レクチャー、社会的意義・活動事例など
		情報収集・発信の重要性について
	プロジェクト基礎 OJT	情報収集・発信業務のサポート
8 月中旬	プロジェクト決定	ゴールまでのアクションプランシートを作成する
～9 月中旬	プロジェクト実施	アクションプランに沿ってプロジェクトを進める
9 月下旬	プロジェクトまとめ	

受け入れにあたって

募集人数：2 名

活動場所・アクセス

■京都市市民活動総合センター（主としてこちらでの活動になります）

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊街 83-1 「ひと・まち交流館 2 階」

* 京都市営地下鉄「五条駅」から徒歩 10 分

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など

- ・基本的な PC 操作（■Word、■Excel、■PowerPoint、■メールソフト）
- ・日常的にウェブサイトを利用していること
- ・大前提として、社会の課題・NPO・市民活動・社会起業などに対して関心があること

A（選択）：イベント企画の実施を希望する学生：「何かを伝えたい」という強い想い

B（選択）：情報発信サポートを希望する学生：マーケティングや PR に関する興味・関心

読んでおくべき事前資料および参考文献

- ・「無私の日本人」磯田 道史（著）※映画「殿、利息でござる」でも可
- ・以下ウェブからインターン期間中かかわっていただくプロジェクトの概要をつかんでください

KYOTO HAPPY NPO! (京都三条ラジオカフェで放送しています) <http://radiocafe.jp/200310001/>
 市民活動情報共有ポータルサイト <https://shimisen-kyoto.org/>
 *ポータルサイトでは主にイベント・講座・ボランティア情報(終了したもの含む)を必ず見ておいてください。

インターンシップ参加の注意点(持ち物・心構えなど)

- ・プロジェクトに責任を持って最後まで継続して参加できること
- ・原則、インターンシップを優先していただける方
- ・留学生および4回生以上の方でも、関心を持って頂いた皆さんは歓迎いたします。

受け入れ団体について

団体名: 特定非営利活動法人きょうと NPO センター

団体のミッション(活動目的)

京都で活動するNPOへの支援をはじめ、市民社会のさらなる発展を目指して、事業(プロジェクト)型の活動を展開しています。「したい」を「かたち」にしながら、市民が自立性を持ってゆるやかに連帯し、主体的に参画できる社会を築きます。

事業概要

- ・NPOの基盤強化のための支援事業(相談、情報発信・提供、マネジメントコンサルテーション等)・NPOへの融資制度・各種講演会・研修会の開催・行政、企業、大学等との連携事業
- ・京都市市民活動総合センターの運営など

研修先所在地: 〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1

(河原町五条下る東側)「ひと・まち交流館 京都」2階 京都市市民活動総合センター

報酬、交通費の支給: なし

連絡先: phone: 075-744-0944/ fax:075-744-0945/ e-mail:office@npo-net.or.jp

研修責任者(スーパーバイザー): 土坂のり子

研修責任者(スーパーバイザー)からのメッセージ

ボランティア体験的なものではなく、NPO や市民活動の課題に直接コミットする、仕事としての要素が高いプロジェクトです。広報・PR 分野やコンサルタント関連企業への就職を希望している方に特にオススメです。短期間でプロジェクトゴールを達成するためには、積極的に学ぶ姿勢と、常日頃の情報収集が望まれます。経験はなくても OK。自分のスキルを伸ばしたい、試したい、とにかく思いっきりチャレンジしてみたい、という学生の方をお待ちしております。

<過去のインターン生の声> NPO に関する知識もちろん増えましたが、「働く」ということを考えるうえで、大きな指標となりました。(法学部 3 回生・男 ※当時) / 1 つのプロジェクトを任せて頂けるので、責任感を持って臨むことが出来ました。(法学部 2 回生・女 ※当時)

公益財団法人京都市ユースサービス協会

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

ユースサービスを理解し・実践する。

ユースサービスのミッション

- ① 青少年が本来持っている力を損なわれることなく、伸ばしていけるように支援。
- ② 青少年が問題を抱えたときや必要を感じた時に課題を自ら乗り越えたり解決していくための力を獲得できるような支援。
- ③ 青少年が市民社会の一員として参画し、役割を担っていけるための経験の機会を提供
- ④ ユースサービス事業が社会的な認知を拡大していくための活動

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

様々な手法（事業）を用いて、子どもから大人へと移行する移行期を支え、成長の手助けとなる。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

中学生から 30 歳までの青少年が地域社会のなかで排除されず、安心して居られる、学べる、遊べる、体験できる、失敗できる、「若き市民」として成長できることを保障するために各事業を作っています。それぞれの地域課題や世代差、性差、文化差などを理解しながら、上記を保障するための具体的活動へと展開していくことを課題として設定します。

プロジェクトの活動概要

（事務局本体事業）ユースサービスを広く伝える広報事業や、特定のテーマ（社会課題）に対応した取り組みに携わっていただきます。

（中京）青少年の新たなニーズ調査、調査から派生した企画実施。実習日は実習生と調整のうえ決定。

（東山）表現活動や、居場所づくりサポート。障がいのある青少年の表現活動・余暇活動を支えたり、青少年が安心して自由に居られる居場所づくりの企画に携わっていただきます。週 1 回土日ベース・定期通い型。

（山科）「べる」という地域通貨を使って、青少年が地域と関わりも持つきっかけづくりの事業で、通貨を使用できる店舗の開拓や地域からの仕事の募集を行います。活動日は実習生と調整して決めます。

（伏見）多文化共生をテーマに、多文化の背景をもつ青少年同士が交流できる場づくりや「日本語教室」運営に携わっていただきます。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017 年 7 月上旬～2017 年 10 月下旬　日数：10 日間程度

* 週に 1 回数時間程度、定期通い型が多いです。実習生と調整のうえ受け入れます。

受け入れにあたって

募集人数：全体で 15 名程度

活動場所・アクセス ・京都市ユースサービス協会事務局／中京青少年活動センター：〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町 262 （地下鉄「烏丸御池」駅から徒歩 5 分） ・京都市東山青少年活動センター：〒605-0862 京都市東山区清水 5 丁目 130-6 東山区総合庁舎 2 階 （市バス「清水五条」すぐ） ・京都市山科青少年活動センター：〒607-8086 京都市山科区竹鼻四丁野町 42 （JR・京阪・地下鉄「山科」駅から徒歩 10 分） ・京都市伏見青少年活動センター：〒612-8062 京都市伏見区鷹匠町 39-2 伏見区総合庁舎 4 階（京阪・近鉄「丹波橋」駅から徒歩 8 分） * 全て駐輪場あり。
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・ word、excel など基礎的な PC の操作ができることが望ましい。
読んでおくべき事前資料および参考文献 ・ 受入事業所ごとに異なるため、マッチング時に伝えます。
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・ 時間厳守はもちろんですが、やむを得ない欠席・遅刻について事前に連絡ができることが最低条件となります。また、活動で知りえた個人情報を守秘できること。

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人 京都市ユースサービス協会 団体のミッション（活動目的）： ・ 青少年活動センターの運営を通して、環境教育・まちづくり・創造表現活動・地域活動・スポーツ・レクリエーション・居場所づくり・多文化共生・相談・情報提供など、様々な分野の活動に取り組んでいます。 ・ 中京青少年活動センター…街のまんなか使える自遊空間・情報ステーション。京都市内の中心部として、地域を越えた京都市全域をカバーする事業として、若者を取りまく社会課題を発信したり、若者の力を使って自主的な活動を発信する機会作りを行っています。 ・ 東山青少年活動センター…表現活動、ものづくりの体験を通して、青少年が自らの力を伸ばし成長するための機会の提供やサポートをしています。 ・ 山科青少年活動センター…青少年の課題解決につながるしくみを地域社会と協働して生み出すことに取り組んでいます。地域通貨の他に現在取り組んでいる活動は地域での学習支援や子ども食堂などの地域展開で、地域通貨の活動とリンクして広げようとしています。 ・ 伏見青少年活動センター…多文化共生・居場所づくり・つながりをテーマに在住外国人支援や国際イベント、若者が交流できる場づくりを行っています。 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： （協会事務局）TEL: 075-231-0640 / fax: 075-231-1231 / e-mail: office@ys-kyoto.org 担当者（スーパーバイザー）：受入事業所ごとに異なります。* 北・南青少年活動センターについては別紙参照。（協会窓口：玉村）

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

大学生も青少年当事者ですが、当事者性のある支援も必要としています。センター運営・プログラム企画や運営を通して、ユースサービスを使ってご自身の成長にも資する体験となることを願っています。

公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター（ごぶSAT）
--

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

コミュニケーションが苦手だったり，対人関係の構築がうまくいかなかったりする若者の居場所づくり活動（ごぶSAT）の運営を通して，寄り添い型の支援について学ぶ。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者が安心して参加できる，プログラム型の居場所づくりについて，実践的に学ぶ。 ・ グループプロセスやグループダイナミクスについて，実践的に学ぶ。 |
|--|

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数でのグループ体験の場の運営に関わりながら，対人支援のあり方について学ぶ。 ・ グループの中で起こっている出来事（グループプロセス）を観察し，それが及ぼす影響（グループダイナミクス）がどのようなものかを実践的に学ぶ。 |
|---|

プロジェクトの活動概要

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月3回（第2土曜日の午後，第4土曜日の午後，第2土曜後の火曜日の午後），少人数でのグループ体験の場（料理やクラフト，レクリエーションなど）ができるプログラムを実施しています。 ・ ワーカー（職員）は，参加者の課題や目標，想いを共有し，新たな目標設定や，適切な関わり方を確認するため，定期的に個別面談を実施しています。 ・ インターン生は，居場所ボランティアと共にグループに入り，参加者のフォローをします。 ・ インターン期間終了までに，インターン生企画のプログラムを実施してもらいます。そのために，下記日程以外にミーティングを設定する場合があります。（別途，日程調整します） ・ プログラム後に毎回「ふりかえり」を行い，グループの中で何が起こっていたのか（グループプロセス），どんな影響があったのか（グループダイナミクス）について，検証します。 |
|---|

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年7月8日 ～2017年10月28日	日数：12日
------------------------------	--------

日	テーマ	詳細
7/8(土)	料理	少人数でのグループプログラム
7/11(火)	〃	〃
7/22(土)	レクリエーション	〃 ※定期試験と重なった場合は配慮します。
8/12(土)	料理	少人数でのグループプログラム
8/15(火)	〃	〃
8/26(土)	レクリエーション	〃
9/9(土)	料理	〃
9/12(火)	〃	〃
9/23(土)	レクリエーション	〃

10/14(土)	料理	〃
10/17(火)	〃	〃
10/28(土)	レクリエーション	〃

受け入れにあたって
募集人数：1名
活動場所・アクセス 事務所：〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 56 番地 北区総合庁舎西庁舎内 3 階 京都市北青少年活動センター，および周辺の地域 市バス「北大路新町」「北大路堀川」下車，徒歩 3 分。 地下鉄「北大路」下車徒歩 10 分。
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・ 特別な知識やスキルは必要ありませんが，EXCELとWORDをある程度使えることが望ましいです。 ・ 対人援助の仕事や居場所づくり，心理学，教育学に関心ある人のエントリーを期待します。
読んでおくべき事前資料および参考文献 特になし
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・ 料理プログラムの日は，エプロンや三角巾を持参してください。なければセンターで貸し出します。 ・ 変に構えず，参加者に寄り添い，共に学ぶようなスタンスを心がけてください。 ・ 実習日程は，上に挙げた日程全てでなくてもかまいません。参加できる日程を選択してください。

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター 団体のミッション（活動目的）： ・ 青少年活動センターの運営を通して，環境教育・まちづくり・創造表現活動・地域活動・スポーツ・レクリエーション・居場所づくり・多文化共生・相談・情報提供など，様々な分野の活動に取り組んでいます。 ・ 北青少年活動センター…青少年が「地域」や「自然環境」について関心を持ち，理解を深めて，社会と関わるきっかけを提供するとともに，青少年の力が発揮できる機会を増やす。また，居場所事業や就労・立ち直り支援事業では，地域若者サポーターなどと連携し，課題を抱える青少年の支援に力を入れています。 研修先所在地： 〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 56 番地 北区総合庁舎西庁舎内 3 階・4 階 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： phone: 075-451-6700 / fax: 075-451-6702 / e-mail:kita@ys-kyoto.org 研修責任者（スーパーバイザー）：久住祐香，松山廉

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

コミュニケーションが苦手だったり、対人関係の構築がうまくいかなかったりする若者の自己成長につながるような居場所プログラム（少人数でのグループ体験）や気軽に過ごせる場の提供をしています。多様な経験を積み、力を蓄えることで、次のステップ（異なる場所）へ挑戦する場を一緒に作りませんか。

公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター
（地域で始めるボランティア）

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

- ・ 青少年が主体的に地域に関わっていく機会や場を提供する。（ボランティア体験の場）
- ・ グループプロセスおよびグループマネジメントについて学ぶ。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

- ・ ボランティアに興味のある若者が、地域での貢献活動を通して、自己有益感や自己肯定感を高めることができる機会を設ける。
- ・ 個人参加しているボランティアをマネジメントし、横のつながりを作りながら、安全かつ円滑に活動できるような場を作り出す。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

「地域で始めるボランティア」の運営補助

- ・ ボランティアのマネジメントを通して、グループの中で起こっている出来事（グループプロセス）を観察し、それが及ぼす影響（グループダイナミクス）がどのようなものかを実践的に学ぶ。

プロジェクトの活動概要

大まかに2つの活動からなっています。

①地域清掃活動（毎月第1土曜日の午前中）

北区にあるN G O団体（日本環境保護国際交流会 Japan Environmental Exchange）と共に周辺地域の清掃活動を行います。

②北区周辺のお祭りやイベントなどで行うプログラムの企画・当日運営

模擬店、こどもが楽しめるブース、環境啓発関連ブース、来場者へのゴミ分別の啓発など

- ・ 新大宮夏まつり（7月最終土曜日の予定）
- ・ 楽只夏まつり（8月第2土曜日の予定）
- ・ FUNAOKA STANDARD2017（11月第1日曜日の予定）
- ・ これらのイベントに向けた企画ミーティング（随時）

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年7月22日～2017年11月4日 日数：9日

日	テーマ	詳細
7/22(土) 午後	企画ミーティング	次回のイベントに向けた企画ミーティング ※定期試験と重なった場合は配慮します。
7/29(土) 午後～夜	新大宮商店街夏まつり	地域の商店街夏まつりにブース出展します。 ※日程は変更になる可能性があります。 ※定期試験と重なった場合は配慮します。

8/5(土) 午前中	地域清掃	地域の環境団体（J. E. E.）とともに、清掃活動を行ない ます。
8/5(土) 午後	企画ミーティング	次回のイベントに向けた企画ミーティング
8/12(土) 午後～夜	楽只学区夏祭り	地域住民が行う夏まつりにブース出展します。 ※日程は変更になる可能性があります。
9/2(土) 午前中	地域清掃	地域の環境団体（J. E. E.）とともに、清掃活動を行ない ます。
9/17(土) 午後	企画ミーティング	次回のイベントに向けた企画ミーティング
10/7(土) 午前中	地域清掃	地域の環境団体（J. E. E.）とともに、清掃活動を行ない ます。
10/28(土) 午後	企画ミーティング	次回のイベントに向けた企画ミーティング
11/4(土) 終日	FUNAOKA STANDARD2016	北区内の障害者団体が行なう、住民交流イベントにブ ース出展します。 ※日程は変更になる可能性があります。

受け入れにあたって	
募集定員：2名	
活動場所・アクセス 事務所：〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 56 番地 北区総合庁舎西庁舎内 3 階 京都市北青少年活動センター，および周辺の地域 市バス「北大路新町」「北大路堀川」下車，徒歩 3 分。 地下鉄「北大路」下車徒歩 10 分。	
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・ 特別な知識やスキルは必要ありませんが、EXCELとWORDをある程度使えることが望ましいです。 ・ ボランティアコーディネーター、まちづくり活動やコミュニティワークに関心のある人のエントリーを期待します。	
読んでおくべき事前資料および参考文献 特になし	
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・ 企画のためのミーティングは、いったん土曜日で設定していますが、インターン生とセンター担当者として調整の上、変更することも可能です。まずは相談を。	

受け入れ団体について

団体名：公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市北青少年活動センター

団体のミッション（活動目的）：

- ・ 青少年活動センターの運営を通して、環境教育・まちづくり・創造表現活動・地域活動・スポーツ・レクリエーション・居場所づくり・多文化共生・相談・情報提供など、様々な分野の活動に取り組んでいます。
- ・ 北青少年活動センター…青少年が「地域」や「自然環境」について関心を持ち、理解を深めて、社会と関わるきっかけを提供するとともに、青少年の力が発揮できる機会を増やす。また、居場所事業や就労・立ち直り支援事業では、地域若者サポーターなどと連携し、課題を抱える青少年の支援に力を入れています。

事務所所在地：

〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 56 番地 北区総合庁舎西庁舎内 3 階・4 階

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：

phone: 075-451-6700 / fax: 075-451-6702 / e-mail:kita@ys-kyoto.org

研修責任者（スーパーバイザー）：阿部翔吾・松山廉

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

若い人が、地域での活動に関わっていけるような仕掛けを作りたいと考えています。どうしても、若者に関心を持ってもらえるかなど、仕掛け人の側から一緒に考えてみませんか？

公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市南青少年活動センター

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

10 代のための「たまり場」づくり

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

中高生を中心とした 10 代の若者が心地よく過ごせる場づくりと、場への参加を通して、多様な人々が出会い、仲間と学び、自身をふりかえる機会をつくる。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

「中学生」「高校生」、「10 代」といっても、一人一人の育つ環境や直面する問題は違います。しかしながら、かれらが抱える課題や置かれた状況を問われず過ごせる場は、若者の成長を支えるために欠かすことのできないものだ私たちは考えています。問題に直面したときに手助けを行うだけでなく、問題が起こる前に、かれらとつながりをつくることを大切にしています。それは、トラブルを未然に防ぐのが目的でなく、困ったときに、「困った」と言える関係、つながりを築くことです。そんな 10 代の若者を取り巻くつながりを豊かにすることが私たちの仕事です。

このインターンシップでは、青少年活動センターの施設運営を考えることやプログラムの企画、効果的に届く広報のあり方を検討し、実際に取り組みながら、10 代の若者（学校に行っていない人も対象にします）が、「たまって、つながれる居場所」づくりに取り組みます。

プロジェクトの活動概要

- ・ 10 代に届く広報の検討と実施、青少年活動センターに集う中高生への日常的な関わり
- ・ 若者の声を活かした、若者が気軽に参加できる取り組みの実施 など

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：	2017 年 6 月下旬 ～ 2017 年 10 月末	日数：10 日間程度
日	テーマ	研修内容
1 日目	オリエンテーション	センターの雰囲気をつかむ
2～3 日目	中高生と関わる①②	プログラムの運営の補助やセンターロビーで過ごす中高生と関わります
週 1 回から 2 回程度	たまり場を構想する	どんな場だと若者がたまりたくなるか、どんな取り組みができるか、話し合いを行い、構想をまとめます 中高生の意見や声を反映させるために、必要に応じて、アンケートやインタビューを行います
週 1 回から 2 回程度	「場」をつくる！	話し合った構想をもとに、プランの具体化を進めます 必要に応じて、中高生の参加も促します
最終日	ふりかえり	活動全体をふりかえり、活動を持続させるためのアイデアをまとめます

受け入れにあたって
募集人数：3名
活動場所・アクセス：京都市南青少年活動センター 近鉄東寺駅、十条駅から徒歩10分もしくは、市バス九条大宮 徒歩5分
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ワード、エクセルの基本的な操作ができること、メールでのやりとりができること。 特別な知識は必要ありません。
読んでおくべき事前資料および参考文献 当センターのブログやフェイスブックに活動の様子をアップしています。雰囲気は、十分につかんでもらえると思います。
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 欠席、遅刻などの場合、必ず、電話で連絡をいれること

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人 京都市ユースサービス協会 京都市南青少年活動センター 団体のミッション（活動目的）： ・青少年活動センターの運営を通して、環境教育・まちづくり・創造表現活動・地域活動・スポーツ・レクリエーション・居場所づくり・多文化共生・相談・情報提供など、様々な分野の活動に取り組んでいます。 ・南青少年活動センター…「たまって、つながる居場所づくり」をテーマに、10代、20代の若者が日常生活から離れて、友だちと1人でほっと過ごせる空間の提供を行っています。 事業概要：居場所づくり事業、ボランティア体験事業、オープンカフェ事業など 研修先所在地：京都市南区西九条南田町72 連絡先：京都市南青少年活動センター 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：phone:075-671-0356 / fax: 075-671-0360 / e-mail:minami@ys-kyoto.org 研修責任者（スーパーバイザー）：横江

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
中学生、高校生の年代の若者に関わる機会は、案外少ないものです。教員を目指している人、児童福祉、心理職を目指しているみなさんにとって、素顔の10代のかれらにふれる機会は、学び多き時間になると思います。少しでも年のはなれた、ナナメ関係の大人として、私たちと一緒に活動しませんか。

京都府地球温暖化防止活動推進センター

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

低炭素型社会実現のため、地域と再生可能エネルギーを結ぶ。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

再生可能エネルギーを地域の人々が身近に感じるような企画を考え、地域のイベントで行う。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

気候変動対策のため、低炭素社会（脱化石燃料社会）を地域で実現することは世界中で求められており、その一環として地域の中で再生可能エネルギー（太陽光発電など、化石燃料に依らないエネルギー。以下「再エネ」という）の普及が課題になっています。そして、その課題解決の一助として、地域の人々が再生可能エネルギーをより身近に感じられるような方策が必要とされています。そのために、当インターンシップでは、地域のイベントで再エネを身近に感じられるような企画の準備や開発を実際に初めから終わりまで責任を持って行います。なお、企画の準備や開発は、単に思いつきで出すものではなく、地域の人や他人に聞き課題を把握することから、実際に地域の人とふれあい、気づき、終わった後でどうだったか振り返る中で生まれるものです。

プロジェクトの活動概要

【はじめ】まず、イベントで自らが説明できるようになるため、気候変動、再生可能エネルギーの基礎的な学習を行います。また、地域での「親子再エネ工作教室」に補助として入り、実際どのように当団体が活動しているのか知ります。

【企画づくり、実行】一つのイベントの企画案を作り、実行します。企画案は、過去の例を参考にしながら、自ら何度も考えて作成します。また、その他の準備も一つ一つ丁寧に行います。

【振り返り】終わった後で振り返って改善点を考えてみます。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2017年7月上旬 ～ 2017年10月下旬 日数：6日

日	テーマ	研修内容
1日目	オリエンテーション	団体紹介、自己紹介。
1日目	再エネについて知る	本や資料で再エネについて調べまとめます。
2日目	地域のイベントを体験	地域のイベントに実際に準備し参加します。
2日目	企画案作成	聞き、調べ、話し合い、企画案を作成します。
3日目	プレゼン	職場内の審査に企画を出します。
4日目	準備	企画の確認・準備を丁寧に行います。
5日目	企画を実行	実際に地域のイベント内で企画を実行します。
6日目	振り返り	改善点を見つけながら、振り返ります。

受け入れにあたって
募集人数： 5 名
活動場所・アクセス 京都府温暖化地球温暖化防止活動推進センター事務所（二条駅から徒歩 5 分）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など やり抜く力。できたら論理的な思考。
読んでおくべき事前資料および参考文献 【必須】当センターの web サイトや Facebook を見てみてください。 【できれば】『異常気象と人類の選択』（江守正多著 角川 SSC 新書）
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 複数人が参加するプロジェクトです。まずは、お互いを尊重する気持ちを忘れずに。それと同時に、周囲を気にせず自分の意見を言えるように。

受け入れ団体について
団体名： 京都府地球温暖化防止活動推進センター 団体のミッション（活動目的）： 「低炭素型のステキな京都」の実現に向けて、その取組の主役となる方々のサポート活動をする。 事業概要： 地球温暖化問題に関する情報発信、環境教育、調査研究、人材育成、担い手のネットワーク作りなど。 研修先所在地：〒604-8417 京都府京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：phone:075-803-1128 / fax: 075-803-1130 / e-mail:center@kcfca.or.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：根岸 哲生

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
せっかくインターンに来るのだから、ひとつの仕事を初めから終わりまで行い、自分の思いやアイデアを形にしてみる喜びを味わってみませんか。低炭素社会という未来に向かう、イベント企画を自らの力でできたらいいものですよ。また、わからない点があれば気軽に職員に聞いてください。お待ちしております。

公益財団法人 京都YMCA（重い病気の子どものときょうだいたちのサマーキャンプ）

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

重い病気の子どものときょうだいたちのサマーキャンプ

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

重い病気の子どものときょうだいたちのサマーキャンプ実施の意義と、実施による効果とはどのようなものかを知ること
--

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

京都YMCAがこのプロジェクトに取り組んで 15 年を迎える。これまでのべ 100 人を超える子どもたちの参加があったが、このキャンプに参加する子どもたちにもたらす効果とはどんなものか。また、子どもたちのみならず、このキャンプに運営スタッフとして関わる人たちにとってもどのような影響があり、どのような意義を感じているかなどを検証し、今後このキャンプを継続していくにあたり、どのようなねらいをもって取り組んでいくことが求められているのかを知りたい。

プロジェクトの活動概要

3 回（3 月、5 月、7 月）にわたって実行委員会を開きキャンプに向けて関係者が準備を進める。
--

7 月に参加者を集めて顔合せ会を開き、参加者にとってもキャンプを楽しみにできるように動機づけする。また、関係者には参加する子どものうち病気を抱える子どもの病状を知り、キャンプの際に必要なケアや、関わり方を学ぶ。

8 月 19 日～20 日：キャンプ本番

10 月～11 月に評価会を実行委員会として開き、評価をして 2017 年度としては終了。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017 年 6 月下旬 ～2017 年 10 月中旬	日数：9～12 日
-----------------------------------	-----------

日	テーマ	研修内容
6 月下旬	プログラム打合せ	キャンプの内容を詰め、当日の役割分担を確認
7 月中旬	顔合せ会、勉強会	キャンプ参加者の理解、キャンプへの動機づけ
8 月 16-18 日	キャンプ準備	キャンプの準備に関わる。
8 月 19-20 日	キャンプ実施	キャンプの実際を知る。
8 月下旬-9 月	効果聞き取り調査	参加者及び関係者からキャンプの効果について調査
10 月中旬	第 4 回実行委員会（評価会）	キャンプ評価及び次年度の日程を決定する。

受け入れにあたって

募集人数：3 名

活動場所・アクセス

京都YMCA本館 中京区三条通柳馬場南東角

地下鉄 烏丸御池駅から徒歩 7 分、阪急 烏丸駅から徒歩 10 分、京阪 三条駅から徒歩 10 分

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など

キャンプ経験はなくてもよいが、1 泊と言えど利用するキャンプ場で生活が求められますので、虫が苦手な方は

苦勞されると思います。その他、子どもと関わることに積極的に取り組めること、自分に与えられた役割に対して責任をもって取り組めること。

読んでおくべき事前資料および参考文献

「小児病棟の四季」もしくは「今、伝えたい「いのちの言葉」」など細谷亮太著作品

※「フロストバレーの子どもたち」黒木保博著

→これは金額もしますのでYMCAでお貸しできますし、キャンプ本番までに一度読んでみていただければと思う文献です。

インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど）

インターンシップでの設定時間には限りがありますが、スタッフとして参加されている方々のほとんどがボランティアでの関わりですので、時間を割いて（あるいは時間を気にせずに）参加されている方を差し置いて帰宅することや時間を気にしながら活動することについてはタブー視されている領域です。もちろん、インターンシップを受け入れるにあたっての私たちも無理のないように配慮しようと心がけますが、上記の点、ご理解もしくは覚悟の上でご参加いただければと思います。

受け入れ団体について

団体名：公益財団法人 京都YMCA

研修先部署名：事業部野外活動部

団体のミッション（活動目的）：当法人は、キリスト教精神に基づき、青少年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図り、奉仕の精神を養うに資する事業を行い、世界の平和と福祉社会の実現に寄与することを目的とする。

公益財団法人京都YMCA定款 第3条目的より

事業概要：この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 心身の健全な発達を促す自然体験やスポーツの機会提供に関する事業
- (2) 高齢者及び病気や障がい等のある青少年の専門的な支援に関する事業
- (3) 豊かな人間性をかん養するために生涯学習の推進に関する事業
- (4) 青少年活動の指導者の育成に関する事業
- (5) 国際理解及び国際協力の推進に関する事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な貸室・物品販売等の事業

公益財団法人京都YMCA定款 第5条 事業より

研修先所在地：〒604-8083 京都市中京区三条通り柳馬場東入ル中之町2

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：phone:075-231-4388/ fax:075-251-0970/ e-mail: kyoto@ymcajapan.org

研修責任者（スーパーバイザー）：中村彰利 nakamura@kyotoymca.org

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

あなた自身が何らかの思いをもってこのプロジェクトに臨んでほしいと願います。参加する子どもたちの「期待に応えられるキャンプにしたい」と願って参加するスタッフたちと同じレベルに立って活動することになります。思いを同じくして共に挑みましょう。

公益財団法人 京都YMCA（ボランティアによる、ボランティア活動への理解・関心を広めるための2つのプログラム）

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

ボランティアによる、ボランティア活動への理解・関心を広めるための2つのプログラム

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

京都YMCAでは、YMCAの目的実現（定款に記載されている目的）のためにさまざまなプログラムを展開している。その中でスタッフ（職員）が推進する事業とは別に会員（ボランティア）が主体的に行っているYMCAの活動がある。YMCA活動は企画から実施まで理事会の下におかれ会員が構成する委員会が中心となって進めている。このプロジェクトは会員が進める各種プログラムに関わり市民を対象とした公益事業の進め方について学ぶ。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

会員組織として発展してきた京都YMCAではその行う公益事業はスタッフを中心となり行う事業と会員がスタッフと協働して行う事業とがある。その中で、会員が中心となった委員会で毎年市民ボランティアの養成のために一般市民を対象とした車いす介助講習会や、視覚障がい者の手引きの講習会、救急法の講習会などを企画し実施している。

今年は8月にゼスト御池を使つての視覚障がい者手引きの講習会及び映画のユニバーサル上映を実施することを計画している。

プロジェクトの活動概要

8月6日にゼスト御池の川原町広場を会場に、ミニコースを設置し視覚障がい者手引きの講習会を行う。当日集まった人及びゼスト御池を通りがかった人を対象に視覚障がい者の方の支援方法や手引きの方法を設置されたコースを使って体験してみることで手引きの方法を知ってもらうイベントを企画している。当日会場で自身も視覚障がい者である松永信也さんの講演会も行う。また、視覚障がい者や聴覚障がい者でも楽しめるように音声や字幕などの支援が入った映画上映会（ユニバーサル上映会）を企画している。会員が中心となって企画実施するこれらのイベントの企画及び実施に係ることで担当スタッフとしてボランティア会員の働きをサポートする役割を担っていただきます。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2017年6月下旬 ～ 2017年8月31日 日数：9日

日	テーマ	研修内容
6月下旬	打ち合わせ	イベント広報について
7月中旬	実行委員会	イベント内容についての詳細について
7月中旬	当会場のコース案決定	会場に設置する手引きのコース案決定
7月下旬	講師打ち合わせ	役割や内容について確認
8月上旬	実行委員会	実施直前の確認
8月6日	プログラム当日	当日のスタッフとしてイベント実施

8月中旬	ユニバーサル上映会当日	当日のスタッフとしてイベント実施
8月下旬	実行委員会	実施後の評価

受け入れにあたって
募集人数：2名
活動場所・アクセス 京都YMCA三条本館 中京区三条通り柳馬場東角 アクセス 地下鉄烏丸御池下車徒歩7分 阪急烏丸下車徒歩10分 京阪三条下車徒歩7分
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 特にはありません。
読んでおくべき事前資料および参考文献 なし
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 運営企画はYMCAの会員と一緒に実行委員会で進めてゆきます。実行委員会は、できるだけ早く出ていただく必要があります。委員会は主に夕方7時から9時くらいまで行います。特に実施日間近の実行委員会には出ていただく必要があります。自分たちが中心になって進めるのだという意識で取り組んでください。基本的にプログラム当日は、参加していただくことが前提です。

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人京都YMCA 研修先部署名：ボランティアビューロー専門委員会 団体のミッション（活動目的）： この法人は、キリスト教精神に基づき、青少年をはじめとする全ての人々の心身と人格の健全な向上を図り、奉仕の精神を養うに資する事業を行い、世界の平和と福祉社会の実現に寄与することを目的とする。 公益財団法人京都YMCA定款 第3条 目的より 事業概要： この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。 (1)心身の健全な発達を促す自然体験やスポーツの機会提供に関する事業 (2)高齢者及び病気や障がい等のある青少年の専門的な支援に関する事業 (3)豊かな人間性进行かん養するために生涯学習の推進に関する事業 (4)青少年活動の指導者の育成に関する事業 (5)国際理解及び国際協力の推進に関する事業 (6)その他この法人の目的を達成するために必要な貸室・物品販売等の事業 公益財団法人京都YMCA定款 第5条 事業より 研修先所在地：〒604-8083 京都市中京区三条通り柳馬場東入ル中之町2 報酬、交通費の支給：なし 連絡先： :phone::075-231-4388 / fax:075-251-0970 / e-mail:kyoto@ymcajapan.org 研修責任者（スーパーバイザー）：上野貴子

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

YMCAは会員組織で、会員が職員と一緒に頑張ってプログラムを進めてゆきます。いろんな人との共同作業になりますので、インターンシップに臨むにあたっては自分から聞く姿勢を持ってください。言われたことだけをやるのでは意味がありません。一緒に作り上げてく気持ちで、積極的に関与してください。また、判らないことがあればその場そのままにしないで聞くようにしてください。

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

あなたも市民パーソナリティー！ ラジオ番組を作ろう！
--

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

コミュニティラジオ 「FMくさつ」 サテライトスタジオの番組制作を通じた広報活動

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》
--

市民パーソナリティーの育成を通じた 街づくり 人づくり

ラジオを通して地域と草津クレアホールをつなぐ番組の制作体験

① ラジオパーソナリティー 体験

② ラジオ制作 ディレクター 体験

③ 番組プロデュース 体験

プロジェクトの活動概要

草津クレアホールでは 毎月1回 第4水曜日の（午後1時～2時）FM草津の人気番組の公開放送（サテライトスタジオ）をロビーで行っています。16年度は子育て支援番組として『赤ちゃんと一緒にサテライト、ラジオロビーコンサート』を中心にしたプログラムを制作しました。17年度はさらに地域で活躍する音楽団体の紹介等を中心にしたコンサートプログラムと新しく地域と草津クレアホールをつなぐ番組制作に関わる市民パーソナリティー、ディレクター、プロデューサーを育成します。
--

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年8月 ～ 2017年11月上旬 日数：15日程度
--

日	テーマ	研修内容
8月	コミュニティFMとは	打合せ
8/23	ラジオロビーコンサート	見学
9月	制作とは	制作会議
9/27	ラジオロビーコンサート	番組体験
10月	スタッフの役割	制作会議
10/25	ロビーコンサート	番組体験
11月 月上旬	放送しよう	番組制作・スタジオ見学

受け入れにあたって
募集人数：10 名
活動場所・アクセス 草津クレアホール（JR南草津駅 下車 徒歩10分）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 特になし 一生懸命、真面目に取り組めること
読んでおくべき事前資料および参考文献 草津クレアホール、アミカホールのHP 草津市 草津市コミュニティ事業団のHP
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 活動しやすい服装 ラジオ出演時は公開放送のため 清楚な服装

受け入れ団体について
団体名：公益財団法人 草津市コミュニティ事業団 研修先部署名：草津クレアホール 団体のミッション（活動目的）：コミュニティの健全な発展と協働のまちづくりに関する各種事業を展開することにより、豊かで希望に満ちた市民社会の創造に寄与すること」を目的に市民自治の活性化に向けた中間支援組織としての機能強化を図りながら志を同じくする人々を結ぶ「かけはし」となり多様な主体が協働できる仕組みづくりと、支援を行っていくことが使命であると考えています 事業概要：公益財団法人草津市コミュニティ事業団は、草津クレアホール指定管理者として、地域の皆さまに「芸術・文化」のある暮らしを提供するとともに、発表や展示の場として、多くの皆さまにご利用いただけるよう努めています 研修先所在地：滋賀県 草津市野路6丁目15-11 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：草津クレアホール phone:077-561-6100 / fax:077-564-5851 / e-mail:info@creahall.net 研修責任者（スーパーバイザー）： 澤 孝子

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
みなさんをつくる番組を楽しみにしています 自分のできること、興味あること、好きな事で参加してください 草津クレアホール サテライトスタジオで会いましょう！

湖南省国際協会

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

学校・地域・国際協会の連携による外国籍児童生徒への日本語指導および学習支援の取り組みを学ぶ

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

湖南省に転入してきた外国籍児童生徒を学校および地域ボランティアや国際協会ボランティアがどのようにかわり、どのような方法で交流を深めているかを体系的に整理し、外国籍児童生徒・保護者および学校・地域ボランティア・国際協会のそれぞれの役割を理解する。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

湖南省に住む外国人住民の割合は滋賀県で一番高く人口の4%を占めている。特に南米（ブラジル、ペルー）が多く最近では定住化が進んでおり、市としては「湖南省多文化共生推進プラン」を策定して多文化共生の地域づくりを行っている。保護者の仕事や家庭の都合で日本に来ることになった外国人児童生徒の中には、母語も日本語も十分に理解できない子どもがいる。定住化が進む中で、日本語が理解できる子どもと理解できない子どもとでは、将来就職する際に大きく差がついてしまう。そこで、湖南省の小学校・中学校に就学した段階から、学校・地域・国際協会などが連携して、外国籍児童生徒とつながることのできる仕組みが必要とされている。

プロジェクトの活動概要

- ・毎週水曜日に日本語初期指導教室（さくら教室）で日本の文化や遊びを指導する。
- ・夏休みの期間に「すまいりー水戸」で、5日間程度夏休みの宿題を指導する。
- ・水戸まちづくりセンターの日本語教室（夜の部）や中央まちづくりセンター（昼の部）でボランティア指導者とともに外国人保護者の日本語指導をする。

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2017年 8月 2日 ～ 2017年 9月 30日 日数：10日程度

日	テーマ	研修内容
8月	すまいりー水戸	5日間程度夏休みの宿題を指導
7・9月	さくら教室（水曜日）	日本語初期指導教室で日本の文化や遊びを指導
7・9月	さくら教室（最終日）	交流会 ホップコーンやパンケーキなど食べ物を作る
9月	日本語教室（夜の部）	日本語指導補助
7・8・9月	日本語教室（昼の部）	日本語指導補助

受け入れにあたって

募集人数：2名

活動場所・アクセス

湖南省水戸まちづくりセンター（すまいりー水戸・日本語教室夜の部）

湖南省中央まちづくりセンター（日本語教室昼の部） 湖南省水戸小学校（さくら教室）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 特にスキルは必要ありませんが、日本語が話せる、子どもと接するのが好きであればOKです。
読んでおくべき事前資料および参考文献 湖南省国際協会 総会資料、広報誌（K I Aたいむず）
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・筆記用具、飲み物（ペットボトル・水筒）

受け入れ団体について
団体名：湖南省国際協会 研修先部署名：事務局 団体のミッション（活動目的）：協会は、湖南省に住み、働き、学び、国籍や民族を異とする人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら共に生きる多文化共生社会の創造に寄与するとともに、相互の信頼と共生の精神を育んでいくことを目的とする。 事業概要：・多文化共生事業（国際理解・国際交流事業、国際化、多文化共生に関する情報の収集・提供、外国語学習支援） ・外国人支援事業（日本語学習支援、多言語による情報提供、多言語による相談窓口の開設、子育て支援、教育支援、防災・災害時支援） ・多文化共生に向けての活動活性化事業（協会と共通の目的を持つ市民・市内各団体・グループのネットワーク化、多文化共生を支援するボランティアの発掘・養成・ネットワーク化、日常的な交流の場の設置） 研修先所在地：〒520-3234 湖南省中央 1-1 中央まちづくりセンター内 1 階 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：phone&fax:0748-71-4332 / e-mail: kia-kyokucho@gaia.eonet.ne.jp 研修責任者（スーパーバイザー）： 鶴衛 正義(つるえ まさよし)

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
湖南省における多文化共生を進める活動は新聞でも取り上げられており、最近では学生ボランティアの活動も多くなりました。海外旅行で「言葉が通じない」ことのもどかしさを感じたことがある人も多いのではないのでしょうか。日本の文化や遊び、宿題などの指導をしながら外国籍児童生徒と交流し、人と人とのつながりの大切さを実感してみてはいかがでしょうか。

特定非営利活動法人 D.Live

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

子どもの「やりたい！」を刺激する授業の企画・実施

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

教室（TRY 部）へ来ている子ども（小学 5 年生～高校 2 年生）の自信を伸ばすような、「やりたい」「こんなこといいな」と思える授業を企画し、実際に授業をおこなっていただきます。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

今、不登校は 12 万人以上います。これはだいたいクラスに 1 人くらいの割合です。3 人に 1 人の子どもは「孤独だ」と言い、5 人に 1 人の子は「自信がない」と言います。私たちは、子どもたちが不安を抱え、自分に自信が持てない社会を変えたいと思い、活動をおこなっています。

あなたには、“子どもの自信を取り戻す教室”である TRY 部にて、授業へ参加していただきます。

教室には、学校へ行きづらい子や不登校だった子も多くいます。彼らは、決して「いじめ」など、わかりやすい理由で学校へ行けなくなったわけではありません。行きたいのに、行けない子がほとんどです。どうしてか、行けないのです。そんな彼らに寄り添い、自信を取り戻していくのが、TRY 部です。

1 人の生徒は、中学 3 年間、ほとんど学校へ行けませんでした。しかし、ひとり旅へ行き、高校に進学すると、生徒会に部活に慌ただしく活動をしています。「勉強をする意味がわからん」と言っていた子は、「クラスの全員を輝かせる教師になりたい」と言い、志望の高校へ行きました。

担任の先生が見学に来たとき、「うちの生徒、こんな顔して笑うのですね。はじめてみました」とおっしゃいました。学校へ行けなかった彼は、今では 6 時前には起きて、学校へ通っています。

大枠はありますが、決まったカリキュラムは、ありません。生徒と接する中で学び、「こんな授業がしたい」と思うものをぜひ見つけてください。

きっと、あなたにしかできない授業ができるはずです。

プロジェクトの活動概要

① 子どもの自信や意欲に関する知識について勉強

「自信」は、どうすれば身につくのか。

どうすれば子どもの意欲を育むことができるのか。

基礎知識がないと、授業をつくることはできません。

まずは、知識を学んでいきます。

② 授業へ参加

授業へ参加して、どんなことをしているか見てください。

そして、子どもたちの反応を見ながら、どんなことができるか考えましょう。

③ 授業案づくり

「こんな授業おもしろそう」というのを考えてください。

はじめは、ダメだしされることばかりかもしれません。

しかし、企画を叩かれていくことで、良い企画、良い授業案に近づいていきます。

④ 授業体験

たとえば、はじめの時間だけを担当する。

話し合いの時間だけ、仕切ってみる。

実際に授業をおこなう体験をします。

⑤ 企画授業の実施

いよいよ本番。

あなたが作った授業をおこないましょう。

さあ、子どもたちはどんな反応をしてくれるのでしょうか？

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年8月上旬 ～ 2017年10月下旬 日数：15日程度		
日	テーマ	研修内容
8月	オリエンテーション	団体と教室（TRY部）について知る
	授業体験	授業に参加し、子どもたちの様子などを見る
	模擬授業づくり	授業の作り方を学び、模擬授業を作ってみる
	授業参加	授業へ参加し、子どもの反応などについて学ぶ
9月～ 10月	授業づくり	一部の授業を実際に担当。授業をつくる
	（一部）授業の実施	担当した授業を実際におこなう
	授業案づくり	どんな内容をおこなうか企画・検討
	授業の実施	授業を実際におこなう
	ふりかえり	全体を通しての振り返りをおこなう

受け入れにあたって

募集人数：3名
活動場所・アクセス 草津まちづくりセンター（草津駅より徒歩5分） 住所：滋賀県草津市西大路町9番6号
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など ・“自信”や“意欲”、“やる気”について学びたいと思っている方 ・子どもと触れあうプログラムに参加したい方 ・何度も何度も根気強く考え続けることができる方 ・必要に応じて課題を提出します。その課題を期限内にPCで作成し、提出できる方。

読んでおくべき事前資料および参考文献

下記の記事や当法人の Web サイトやブログ

○『だれもが子どもの「やりたい!」を応援できる社会へ。』

「NPO 法人 D.Live」田中洋輔さんに聞く、今すぐできる、子どもの自信を育む関わり方』

(<http://greenz.jp/2016/02/15/dlive/>)

○「自信のない君」へ送り続けるエール・前編

<http://www.blog.dlive.jp/2016/07/05/yell-for-kids-1/>

インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど）

- ・ とにかく、どんどん失敗してください。出来なくても問題ありません。
- ・ 期限や時間は厳守してください
- ・ 持ち物については適宜お知らせします（基本、手帳やメモ帳、ペンなどです）

受け入れ団体について

団体名：NPO 法人 D.Live

団体のミッション（活動目的）：

『子どもがなりたい自分に向かって思いきり取り組める社会をつくる』

能力や環境、才能に関わらず、どんな子どもでも、自分の未来に向かって希望を持てるようにしたい
と思い活動をおこなっています。

教室運営の他にも、ひとり親家庭の子ども向けの居場所、不登校の昼の居場所。保護者や教員も向け
の研修などもおこなっています。

事業概要：

TRY 部は、子どもの自信を取り戻す教室です。行き渋りがある子。学校へ行けない子が、自分自身と
向き合い、自信を取り戻していきながら、やりたいことに向かって一歩を踏みだすことができるよう
になるところです。

研修先所在地：525-0066 滋賀県草津市矢橋町 105-1 406

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：phone: 077-543-5771 / e-mail: info@dlive.jp

研修責任者（スーパーバイザー）：田中洋輔

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

TRY 部とは、文字通りチャレンジする場です。私たちスタッフも、常に子どもたちが喜ぶような、自
信を伸ばせる授業開発をおこなっています。ときには失敗もする。うまくいかないこともあります。
上手な、ちゃんとした授業をしていただく必要はありません。あなた自身が「チャレンジしたい!」
という気持ちさえあれば、私たちは全力でサポートをおこないます。
あなたの挑戦、お待ちしております。

社会福祉法人 びわこ学園医療福祉センター野洲

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

障がい児サマースクールでのボランティア体験、及びボランティアしやすい環境を共に考える運営の補助。リーダー的役割を担う課題の提案・考察
--

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール ・ 障がいのある児童を対象とした「野洲市障がい児サマースクール」でのボランティア体験と活動運営の体験。 ・ 活動の企画運営と補助 ・ ボランティアとして体験したことや他ボランティアの意見から、課題を発信し解決の方向性を提案していく。
--

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》
--

「野洲市障がい児サマースクール」は、市内の障がいがある子どもさんの余暇支援事業です。この事業には、多くのボランティアが参加します。日々来られるメンバーも違います。年齢層も中学生からご年配の方まで幅があり、それぞれのお立場からの感想やご意見があるかと思われます。その集団に入ってもらった中で感じた、ボランティアに関する課題を見出し提案、方向性を一緒に考えていければと思います。
--

また、活動の企画運営補助を担うところでは、参加される子どもさんの障がいの理解やそれを踏まえての企画・実施力のアップにつなげていただければと思います。

プロジェクトの活動概要

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前研修会、日々のミーティング（意見交換）への参加。 ・ レクリエーションの企画運営参加 ・ サマースクールに参加されている子どもさんへの支援 ・ 担当者との振り返り（感想や意見の発信と考察） |
|---|

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年7月 ～ 2017年8月 日数：20日開催のうちで12日程度。
--

日	テーマ	研修内容
	オリエンテーション	びわこ学園医療福祉センター野洲の概要、野洲市障がい児サマースクールの概要についての説明と見学
	事前研修会 (ボランティア対象)	サマースクールについての概要説明 障がいのある子どもとの関わり方 ご家族からのお話
	会場準備	サマースクールの準備（物品運搬、物品整理など）
	サマースクール開所 ※土日、お盆時期お休み	ボランティアとして参加。 活動前後のミーティングに参加。

	片づけ・反省会	
	※詳しい日程は5月の会議で決定します。	

受け入れにあたって
募集人数：4名（1名につき10日間程度）※オリテ・研修含め12日間 要相談
活動場所・アクセス びわこ学園医療福祉センター野洲 地域交流棟 ※外出もあり JR 野洲駅 送迎あり（南口一般乗降場所 8:40） マイカー可
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 特にありません。（事前研修会参加）
読んでおくべき事前資料および参考文献 事前研修資料等、当日までに読んでおいていただければと思います。
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） ・動きやすい服装（子どもと遊びやすい服装）！露出の多い服は× ・ヘアピンやネイルの装飾品、ピアスは装着しない様に。（紛失、落とすと異食対象になります） ・弁当をご用意してください。食堂もあります（申込み必要・定食 400 円） ・事前研修会に参加して、事前に障がいについて理解を深めてください。 ・自分も子どもと一緒に活動し、楽しむことが大切です。やる気をもって参加してください。

受け入れ団体について
団体名：びわこ学園医療福祉センター野洲 研修先部署名：生活支援部 地域交流課 団体のミッション（活動目的）：野洲市内で在宅の障がい児の夏休みの過ごししの充実。野洲市委託の余暇支援事業。 事業概要：野洲市障がい児ホリデー事業（サマースクール） 事務所所在地：〒520-2321 滋賀県野洲市北桜 978-2 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：滋賀県 野洲市 北桜 978-2 phone: 077-587-1144 / fax: 077-587-4211 e-mail: t_tsuru@biwakogakuen.or.jp 研修責任者（スーパーバイザー）：水流 寿子（つる としこ）

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

サマースクールでは、1日に20名までの障がいを持った子どもさんが夏休みに過ごす場の提供と活動を企画しています。この事業は「障がいのある子どもが楽しく安全に過ごす」ということが大きな目標です。支援者は平均1日30名以上のボランティアの方を募集しています。参加してくださる方も長年お越しの方、興味を持って初めて参加される方など経験も、また年齢も幅があります。（中学生からご年配の方まで）。1日だけのご参加もあれば、継続してご参加の方もおられます。子どもだけでなく、ボランティアにも参加したことを楽しんでいただければと思って取り組んでいます。安全で楽しい場をつくるためにも大勢の方のご協力を必要としています。障がいを持った子どもたちの理解、受けとめを学んでいただくことと、次回のボランティア参加につながっていくようにボランティア側の様々な理由や思いを持って支援してくださる気持ちを理解するなど、企画や運営のご協力くださることでボランティアリーダーとしての力をつけてくださるとよいかと考えます。課題や解決策、気づいた点の提案など運営に携わるなど、一緒につくっていく気持ちを大事にしたいと思っています。ホリデースクールを経験して看護や福祉関係の職種にも興味を持っていただけると嬉しいです。よろしくお願い致します。

びわこ学園医療福祉センター 野洲 地域交流課 水流寿子

特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

子どもが抱える困難さを解決していくための仕組みづくり

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

地域の中で過ごす子どものたちが抱える困難さを、解決するための取り組みの基盤を、学生とともに創り出す。
--

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》

子どもを取り巻く多様な社会の課題に対し、地域から子ども、家庭、学校などに多岐にわたる働きかけを行なっている。子どもの貧困、虐待、いじめなどの深刻な課題から、よりよい学びや体験の機会まで、子どもたちの「豊かな育ち」をマチとして、どのように創出していくかが、大きな課題となっている。その課題を克服していくには、多様なアクションを支える「基盤」が必要になる。
--

プロジェクトの活動概要

子どもの生活・学習・余暇支援、学校サポートから取り組みを考える

(※プロジェクトは予定のため、活動内容が大きく変更される場合があります)

山科・醍醐地域の子どもたち(主に「ひとり親家庭」「生活保護世帯」の小学生～中学生)に以下の支援を実施するので、その運営を行なっていただきます。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 暮らしサポート:食事・入浴・学校の宿題など夜の生活を共に過ごします。 学びサポート:予習・復習・学校の宿題など、子どものペースに合わせた学習をします。 学校サポート:宿題等の学習サポートや放課後遊びを行います。 余暇サポート:地域イベントへの参加やブース運営などを子どもと一緒にに行ないます。 食事サポート:月に1回の食事会の運営を行ないます。 |
|--|

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間： 2017年7月 ～ 2017年9月末	日数：10日間程度
---------------------------	-----------

日	テーマ	研修内容
	ガイダンス、学び①	子どもを取り巻く社会課題、組織、活動を知る。
	学び②、考える①	活動を支える基盤とマネジメント、アクションを考える
	実践①、振り返り①	アクションプランに沿って準備、既アクションの検証
	実践②、学び③	それぞれ考えたアクションを実践、現場へ、振り返り
	実践③、学び④	それぞれ考えたアクションを実践、振り返り
	振り返り②、考える②	実践を踏まえての再プランニング
	評価、提案、振り返り会	全体の取り組みの評価、団体への提案、振り返り

受け入れにあたって

募集人数：3名

活動場所・アクセス 山科醍醐こどものひろば こども生活支援センター（山科区竹鼻堂ノ前町 18-1 山科駅徒歩 7 分） 醍醐事務所（伏見区小栗栖森本町 地下鉄石田駅徒歩 10 分）
インターンシップに必要なスキル・経験・知識など 子ども、ボランティア、NPO などにまつわる基礎知識。 ワード／エクセル、facebook などの SNS などパソコンをほどよく使える
読んでおくべき事前資料および参考文献 山科醍醐こどものひろばに関する web 媒体 書籍「こどもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち」
インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど） 一人前の社会人のつもりで、立ち居振る舞ってください。

受け入れ団体について
団体名：特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば 団体のミッション（活動目的）：地域に住むすべての子ども達が、心豊かに育つことを目指し、地域の社会環境・文化環境がより良くなることを目的とした NPO 法人です。 子どもと大人が一体となって、ものごとに真剣に向き合うことで、“共に育ち合いたい”との願いを大切に、日々の活動をしています。子ども同士・子どもと青年や大人・青年と大人など、あらゆる人にとって、自分らしく生きることのできる、人との交わりを大切にしています。 事業概要：子育てサポート事業：「げんきスポット 0-3」（0～3 歳の親子の自由来館スペースの運営） 体験活動：「わんぱくクラブ（幼児～低学年）」「Jr. キャンプ（小～中学生）」「創作劇（子どもと大人の表現ワークとそこから生まれる劇の公演）」「町たんけん（地域の文化や歴史にふれる）」子ども個別サポート活動：「楽習サポートのびのび（生活・学習・余暇支援、子どもの貧困対策事業）」地域との連携活動：「こどもフェスタ（年 1 回主催 1000 名ほどの参加者）」等 事務所所在地：京都市山科区竹鼻堂ノ前町 18-1 報酬、交通費の支給：なし 連絡先：phone: 075-591-0877 / fax: 同左 / e-mail: vo.kodohiro@gmail.com 研修責任者（スーパーバイザー）：品田、津田、川島、村井

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ
子どもの貧困、いじめ、虐待など、様々な社会課題を抱える子どもたちと、学生として関わるなかで、その子たちの抱える“困った”に気づき、それに対してなにができるのか、子どもたちがどうしてほしいのかなど考え、実践してもらえればと思います。

NP0 法人 NP0 ワイワイあぼしクラブ

インターンシップ（プロジェクト）のテーマ

障害のあるなしにかかわらず、普通の暮らしの中で「共に育つ」ことの意味を理解する。

プロジェクトの概要

プロジェクトが目指すゴール

子ども達の学習・遊び等の活動を通して、またグループダイナミックスを通して個々の子ども達と支援者の関わりを深め、これからのコーディネーターの活動に活かす。

プロジェクトの背景《インターンシップで取り組む課題》
--

年齢的にも幅があり、種々の障害を持った子ども達と持たない子ども達の日常的な関わりを通して、世代間交流の場を通して「互いの存在を認め合う」とはどういうことなのかを考える。

共に関わり合いの持てる場と共有できる活動の開拓。

プロジェクトの活動概要

地域の子子ども達と約1週間向き合い・寄り添い・共感的な関わりを持ち、互いの違いを認めながら支えあうことの意味を知る
--

スケジュール（募集時に詳細が決定しない場合はマッチング後に受講生と調整）

研修の期間：2017年7月21日～2017年8月31日 日数：6日
--

日	テーマ	研修内容
7月21日から8月31日 AM9:00～PM16:30 16:30～17:00 振り返り		*前半、後半の2回に分けてそれぞれ約一週間実施する。 *実施日は受講者と話し合って決める。 *実習の途中で当NP0の事業所見学と理事長の講話を聞く。 *実習最終日振り返り（一週間の感想を聞く。）

受け入れにあたって

募集人数：4名

活動場所・アクセス

湖南省石部東7丁目5番9号 あったかほーむ「いしべ宿」 TEL：0748-77-6723

JR琵琶湖線 草津駅-乗り換え-JR草津線 石部駅下車

石部駅前・めぐるくん(バス)-医療センター下車-徒歩1分 石部駅より徒歩30分
--

インターンシップに必要なスキル・経験・知識など

経験、知識特になし(グループワークの経験者歓迎)。子どもが好きで、福祉に興味のある人

読んでおくべき事前資料および参考文献

滋賀県社会福祉協議会から出されている「みんなちがってみなおなじ」

インターンシップ参加の注意点（持ち物・心構えなど）

・活動しやすい服装、運動靴、帽子（子ども達の刺激にならない服装に気をつけてください。）
--

受け入れ団体について

団体名：NPO ワイワイあぼしクラブ

研修先部署名：あったかほーむ いしべ宿

団体のミッション（活動目的）：

知的障害者グループホーム、痴呆性高齢者グループホームの運営、障害児者の余暇活動支援、太陽光による市民共同発電所などの環境保全等の事業に「小規模」・「多機能」・「分散」「双方向」を基本として活動している。

事業概要：

学童の放課後や、障害児者の余暇支援、日中一時支援事業（障害児）、子育てサロン（場所提供）等、地域からの要望を受けて、誰もが利用でき、また世代間交流の機能を持つ場所として運営されている。

研修先所在地：滋賀県湖南市石部7丁目5-9-1

報酬、交通費の支給：なし

連絡先：あったかほーむ いしべ宿

phone: 0748-77-6723 / fax: 0748-77-6723 / e-mail: npowai@ex.biwa.co.jp

研修責任者（スーパーバイザー）：中川豊

研修責任者（スーパーバイザー）からのメッセージ

約一週間の短い期間であっても、子ども達と楽しい時間を共有し、ふれあい・ひびきあい・育ちあう心を見つけてください。また、人との関わりを創造していくことに努めてください。